

特集：ヤマハスクーターフェアで秋のスクーター商戦開幕！

8月25日～
9月30日 **YAMAHA**
スクーターフェア 好評
開催中！

E・ローソン、C・ラバード、タイトル決定
YZR '86世界GP2クラス制覇！
平選手 サンマリノGPで優勝！



人気沸騰のYSRに80cc登場!

YSR80

- カラー：ホワイト/ファラウェーブルー
- 標準現金価格：21万9千円(北海道、沖縄は3千円高)



街乗りからツーリング、そしていま話題のMP12レースまで……新感覚のスポーツライディングで人気沸騰のYSRに、9月1日からは原付二種モデル『YSR80』が新登場します。

ヤングのスポーツバイク入門モデルとして幅広い人気を集めるYSR50に対して、この『YSR80』はおもに二輪免許所持者のセカンドバイクとして開発したものです。排気量アップによってミニマム・ボディに本格機能を搭載したYSRの楽しさを一段ときわだたせ、50cc規制にとらわれないダイナミックな走りを発揮します。

YSR80の主な特徴

- ①空冷・2サイクル・80ccエンジンと新設計マフラーとの組み合わせで8.8PS/8000rpmのハイパワーと0.81kg-m/7500rpmの高トルクを発揮。リターン式5速ミッションとあいまって小気味よい走りを生み出します。
- ②エンジンはラバーマウントでフレームに搭載、振動低減をはかって快適性を高めています。

③角型鋼管ダイヤモンド・フレームには2本のダウンチューブを追加。80ccエンジンのハイパワーにあわせて強度アップし、操安性を向上。

④エンジンのパワーをフルに引き出して走りを楽しむために、タコメーターも標準装備。チェンジャーやスロットルワークなどよりシビアなテクニックを楽しめるものとなりました。

※左記以外は、前後12インチホイールとワイドタイプのニューパターンタイヤ、フロントの油圧式ディスクブレーキなど基本構成はYSR50と共通です。

YSR80仕様諸元

- 全長1610mm ●全幅635mm ●全高930mm ●シート高650mm ●軸間距離1060mm ●最低地上高115mm ●乾燥重量76kg ●舗装平坦路燃費62km/ℓ(50km/h) ●登坂能力20° ●最小回転半径2.4m ●制動停止距離8.0m(35km/h)
- エンジン空冷2サイクル・ピストンリードバルブ・単気筒・79cc ●内径×行程49×42mm ●圧縮比6対1 ●最高出力8.8PS/8000rpm ●最大トルク0.81kg-m/7500rpm ●始動方式キック ●潤滑方式ヤマハオートループ ●オイルタンク容量0.7ℓ ●燃料タンク容量8ℓ ●キャブレタVM18SS ●点火方式CDI ●点火プラグB7HS、B8HS ●バッテリー容量6V 4Ah
- 1次減速(比)ギヤ(3.578) ●2次減速(比)チェーン(2.642) ●変速機リターン式5段 ●変速比①3.250②2.000③1.428④1.125⑤0.961 ●フレーム鋼管ダブルレール ●キャスト26"00 ●トレール67mm ●タイヤ(前)3.50-12-2PR(後)4.00-12-2PR ●ブレーキ(前)油圧式ディスク(後)ドラム ●懸架方式(前)テレスコピック(後)スイングアーム ●緩衝装置オイルダンパ+コイルスプリング(前後とも)
- ヘッドランプ6V 25W 25W ●テールランプ6V 3W ●ストップランプ6V 10W ●フラッシャーランプ6V 8W



YSR50に、話題の特別仕様登場

マールボロ

●標準現金価格：19万9千円

YSR80の登場とあわせて、YSR50にはご覧のような「マールボロ・カラー」の特別仕様が発売されます。'86世界GP500ccでチャンピオンを決定したE・ローソンや250ccクラスで大活躍の平選手らのYZRグラフィックをそのままYSR50に再現した限定モデルです。

9月から始まる秋のスポーツバイク拡販キャンペーン「チャンピオンシップカーニバル」の話題づくりとあわせて、どうぞご拡販ください。

※なお、カラー/グラフィック以外現行YSR50と変更ありません。



時代に即応したマルチ・ユーティリティバイク YD250 新発売

●カラー：カリビアンブルー

●標準現金価格：31万8千円(北海道、沖縄は6千円高)

YD250の主な特徴

- 1 デュアルエキゾースト方式の4サイクル・OHC・単気筒エンジンは、中低速トルクにすぐれた扱いやすい特性。一軸バルンサーによる振動の低減、ゆったりしたライディング・ポジションとあわせて長時間の走行も疲れずゆったりとこなします。
- 2 脱着の容易なタンデムシート、積載力抜群の大型リヤキャリア、

オイルダンパー式前後サスペンション、前輪4PR・後輪6PRと強度アップしたタイヤ、セル・キック併用式の始動……など充実の装備がビジネスユースにすぐれた効用性を発揮します。

- 3 デジタル時計、電気式フェUELメーター、12ℓ大容量燃料タンク、泥や埃からチェーンを守るフルチェーンケース、防塵・防水式のハンドル・レバー、ダブルホーンなど毎日の運転に便利な機能も満載です。
- 4 クロームメッキを多用し、「実用車」イメージを払拭したハイクオリティな質感と仕上げ。

“速配”や“超特急郵便”などの小口輸送にみられるように、過密化の著しい大都市交通において時代に即したトランスポーターとして二輪車の機動力が改めて見直されています。

そうした中で、9月1日から新登場するのが新しいバイク・ユースに対応して新開発したマルチ・ユーティリティバイク「YD250」です。

これまでの“業務需要”の枠をこえて、商圏内のより多くのお客さまにこの「YD250」をおすすめください。



YD250仕様諸元

- 全長2065mm ●全幅745mm ●全高1090mm ●シート高760mm ●軸間距離1315mm ●最低地上高145mm ●乾燥重量136.5kg ●舗装平坦路燃費57km/ℓ(50km/h) ●登坂能力30° ●最小回転半径22m ●制動停止距離14m(50km/h)
- エンジン4サイクル・OHC・単気筒・249cc ●内径×行程75×56.5mm ●圧縮比9.2対1 ●最高出力20PS/8500rpm ●最大トルク1.7kg-m/6500rpm ●始動方式セル・キック併用式 ●潤滑方式圧送式ドライサンプ ●エンジンオイル容量1.7ℓ ●燃料タンク容量12ℓ ●キャブレタBS34 ●点火方式CDI ●点火プラグBP7ES、W22EP ●バッテリー容量12V14Ah ●バッテリー型式YB14L-A2
- 1次減速(比)ギヤ(3,130) ●2次減速(比)チェーン(2,733) ●変速機シーソー式5段 ●変速比①2.64②2.1684③1.260④1.000⑤0.821 ●フレーム鋼管ダイヤモンド型 ●キャスト27°30' ●トレール104mm ●タイヤ(前)3.00-17-4PR(後)3.25-17-6PR ●ブレーキ機械式ドラム ●懸架方式(前)テレスコピック(後)スイングアーム ●ヘッドランプ12V35W35W ●テールランプ12V5W ●ストップランプ12V21W ●フラッシュランプ12V21W



ワールド・チャンピオンの実績が光るホワイト・YZ '87YZシリーズ 新登場

ジャッキー・ピモンド選手とYZ250改の世界選手権獲得によって、ハイレベルな戦闘力を世界に立証したヤマハモトクロッサーYZシリーズ。いよいよ9月からその'87年モデル

が新登場します。YZ80は9月1日、125/250は9月20からの発売ですが、どうぞお店でもコンペティション・ユーザーを対象に積極的な予約活動をご展開ください。



幅広いライダーに応える 信頼のハイ・パフォーマンス! YZ80

●標準現金価格
¥224,000

MFJ県協会によるBライセンス講習会などの開催もあって一層の人気拡大が期待される80ccクラス。そんな80ccクラスのトップモデルとして定評のYZ80は、'87年吸・排気系の見直しによって中低速性能と高速域での伸びを大幅にアップ。モノクロス・サスペンションのセッティング変更による減衰特性の向上、ブレーキフィーリングやチェーンフィーリングの向上などとあわせて、総合的な戦闘力を大きく高めています。

■YZ80の主な仕様諸元

●全長1795mm ●全幅765mm ●全高1060mm ●軸間距離1235mm ●シート高800mm ●最低地上高290mm ●乾燥重量61.5kg ●水冷 ●2サイクルピストンリードバルブ・単気筒・79.1cc ●内径×行程47×45.6mm ●圧縮比8.6対1 ●最高出力23PS/11750rpm ●最大トルク1.42kg-m/11250rpm ●変速機リターン式6段 ●タイヤ(前)70/100-17 (後)90/100-14 ●ホイールトラベル(前)255mm (後)260mm

フルチェンジ2年目で ポテンシャルをさらにアップ YZ125

●標準現金価格
¥390,000

YZR500/250と共通のクランク室リードバルブ吸気のニューエンジンを採用して注目を集めた'86年YZ125。'87年モデルは、YPVSも含めて吸・掃・排気システムをさらに熟成し、とくに中低速域での顕著な性能アップを果しています。セミダブルクレードル・フレームも新設計とし、新たにバリアブルダンパーを装備したフロントフォークなどとあわせてオフロードの走破性、操縦安定性を一段とアップしています。

■YZ125の主な仕様諸元

●全長2135mm ●全幅850mm ●全高1240mm ●軸間距離1450mm ●シート高935mm ●最低地上高350mm ●乾燥重量87kg ●水冷 ●2サイクル・クランク室リードバルブ・単気筒・123cc ●内径×行程56×50mm ●圧縮比8.4-10.5対1 ●最高出力34.5PS/11000rpm ●最大トルク2.35kg-m/10000rpm ●変速機リターン式6段 ●タイヤ(前)80/100-21 (後)100/100-18 ●ホイールトラベル(前)305mm (後)315mm



成熟のワールドチャンピオン レプリカ YZ250

●標準現金価格
¥468,000

パワーユニット全般の見直しによって動力性能を向上。これにあわせてストロークに応じて減衰力が変化するバリアブルダンパー装備のフロントフォークの採用などにより車体関係もレベルアップしてトータルなポテンシャルを一段と向上させた'87YZ250。'86YZ250改のノウハウをフルにフィードバックした成熟のチャンピオンマシン・レプリカです。

■YZ250の主な仕様諸元

●全長2170mm ●全幅850mm ●全高1230mm ●軸間距離1470mm ●シート高940mm ●最低地上高340mm ●乾燥重量97.5kg ●水冷 ●2サイクルピストンリードバルブ・単気筒・246cc ●内径×行程68×68mm ●圧縮比8.54-10.12対1 ●最高出力48PS/8250rpm ●最大トルク4.35kg-m/7500rpm ●変速機リターン式5段 ●タイヤ(前)80/100-21 (後)110/100-18 ●ホイールトラベル(前)305mm (後)320mm



4サイクル・エンデューロ新発売! TT225/350

●標準現金価格・TT225・34万5千円
TT350・43万円

アメリカやオーストラリアで人気の高い4サイクル・エンデューロ「ヤマハTTシリーズ」。日本のオフロードファンからも要望の大きかったこのシリーズが、9月上旬より国内市場にも登場します。「TT225」「TT350」——どうぞ新しいオフロードの楽しさ「エンデューロ」を、多くのお客さまにご紹介ください。なお、2モデルともオフロード専用で一般公道の走行はできません。



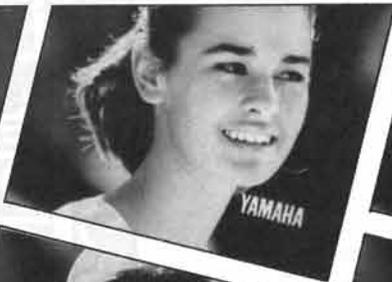
特集 ヤマハ・スクーターフェアで
秋のスクーター商戦開幕!

YAMAHA スクーターフェア

8月25日～9月30日

8月25日からオン・エアを開始した「ミニント」の新しいテレビCF・森編と連動して、いま全国のヤマハ販売会社では、秋のスクーター拡販キャンペーン「ヤマハ・スクーターフェア」を開催中です。(北海道地域除く)

地域によって内容はさまざまですが、ミニント、ジヨグ、チャンフ、エクセルと、すべてのスクーターユーザーをカバーするヤマハスクーターフルラインアップで、一段とダイナミックな秋のスクーター商戦をくりひろげていたからこそというものです。さあ、みなさまのお店でも、テレビCF連動のこの「ヤマハスクーターフェア」を活用して、どうぞ積極的なスクーター拡販活動を展開ください。





「学校でも男の子の話題は、250cc以上のスポーツバイクのこともばかり。女の子同士はスクーターのはなし。乗り心地もいいし、ガッシリしたつくり、それに収納ボックスもあってミントは大満足です」と井上さん

「テレビのコマーシャルを見ていて、可愛いスクーターだな」と思っていたんです。それに私はピンクが大好きだから、ジョグのホワイト/ピンクとどっちにしようか、ちよつと迷いましたけど、結局新しい「ミント」のピンクに決めました。

とっても嬉しかったから、4月16日の水曜日に納車されたことを4ヶ月たったいまでもはつきりと覚えてます。だってこんなに大きな買い物、私には初めての経験ですからね。実際にはお母さんに内緒でお父さんが半額出してくれたんですけど。ミントという車種と、ピンクというカラーを決めたのは私ですからね。

スクーターに乗るようになって本当に世界が変わったようです。何をすることもミントでホ

おしゃれなカラーとやわらかい走り 幅広い女性ユーザーをとりこめたミント

さて「ヤマハ・スクーターフェア」の開催にあわせて、ここでちょっと今春発売されたニュースクーター「ミント」と「エクセル」の販売状況を整理しておきましょう。

人気のスプリンター「ジョグ」と「チ

ヤンプ」に加えて、ヤング女性市場の拡大を狙った「ミント」また幅広い代替需要層の獲得をめざした「エクセル」は、発売以来どのように市場に浸透しているのか—お店でのスクーターフェア開催のご参考に、ぜひご一読ください。

イホイ、用事もないのにアチコチ走りまわつて……(笑)

——とおっしゃるのは、典型的な湘南のミント・ギャル、井上千佳子さん(神奈川県藤沢市・16才・高二)今年3月に原付免許を取得、4月に発売されたばかりのミントを購入した井上さん。この夏は、海水浴客でにぎわう湘南・藤沢の町を、アルバイト先へ、ジョグピ

ンクに……とミントでさつそうと走りまわっています。

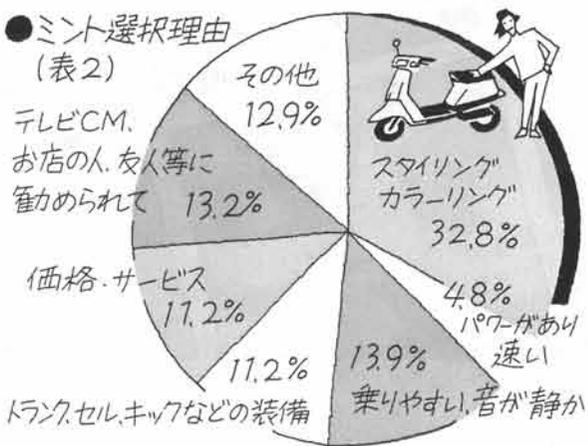
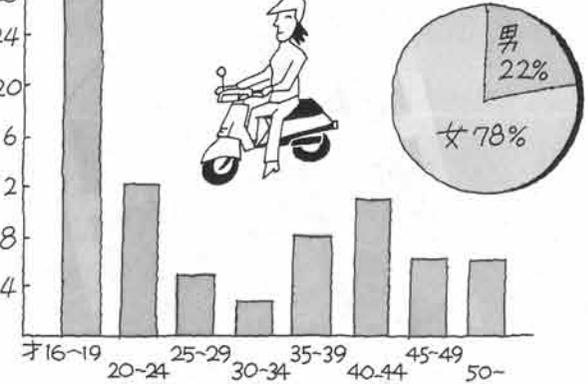
こんな井上さんの例に象徴されるように、おしゃれなバステルカラーとやさしい走り、女性ユーザーをしっかりとらえている「ミント」。では実際に「ミント」のお客さまは、どのような方が多く、また「ミント」のどんなところが最も気に入って購入しているのでしょうか。4月の発売から3ヶ月間の購入者から寄せられた、お客さまハガキをもとにみてみましょう。

表1からも明らかのように「ミント」ユーザーの8割は女性。それも10代のギャルと40代の婦人層に多く受け入れられていることがわかります。

しかし、学生29%、主婦15%、パート15%、その他11%、事務10%ときわめて多彩な職業の人たちがいること、またその60%が新規購入であること、さらには購入年齢層が平均して高いという初期ユーザーの特徴などをあわせて考えると、「ミント」の女性ユーザーは、

このグラフでみる以上に、ギャルからヤング女性そして婦人層まできわめて幅広く広がっていることと、男性でも買物38%、通勤35%、通学13%、ちょい乗り6%……と生活に密着した形で使用されているのが「ミント」の特徴。では、何が一番の決め手となって「ミント」を購入されたのか? これでは、スタイルとカラーが33%と一番。次いで乗りやすい、音が静か14%、コマーシャルやお店の人、友人

●ミントユーザー男女比と女性ユーザーの年齢分布(表1)



人気キャラクターとのタイアップで 湘南ギャルの人気を集める スベシタル・ミント

YSP藤沢 (山本俊彦社長 / 神奈川県藤沢市)

ではそんな「ミント」を、販売店のみならず、まはどのような方法で拡販され、成功されているのでしょうか? 関東の2店の販売店さんうかがってみました。

最初に紹介するのは、神奈川県藤沢市の

YSP藤沢 (山本俊彦社長) さん。冒頭で紹介したミント・ユーザー、井上さんの購入店でもあるYSP藤沢さんは、スクーターからスポーツバイクまで幅広い商品を展開されています。そんなYSP藤沢さんがこの夏展



特集 ヤマハ・スクーターフェアで 秋のスクーター商戦開幕!

「タイアップ・セールのもり上がりを秋のスクーター商戦にも…」と意欲的な山本社長(右)とサービスの森崎さん



「ミントを見て『コレだっ!』と思ったんです」というシードッグ・島嶋専務

開して話題を集めた。『ミント』。拡販作戦は、地元・湘南のアメリカン・レストランと提携しての「スペシャル・ミント」の発売です。つまり、鎌倉でレストランを経営する一方オリジナルなファンシーグッズの販売で、いま湘南にやってくるヤングやギャルの人気を集めるシードッググループ(横浜犬舎・長嶋有子社長)さんとのタイアップ企画で、写真のようなオリジナル・プレートに付けたフロントバスケットを装着、またボディにオリジナルステッカーを貼った「シードッグ・ミント」を、10万8千円の価格で、鎌倉七里ヶ浜のシードッグさんのグッズショップとレス

トランで販売。それにまつわる登録、納車整備、アフターサービスなどの一切をYSP藤沢さんが受け持つというわけです。

『私だけのオリジナル・ミント』

もともとシードッグさんは、アメリカン・ファミリーレストランとして81年に創業。当時からキャラクターとして採用したシードッグ(あざらし)マークが大ヒット。このマーク入りのTシャツ、トレーナー、ステッカーなどオリジナルグッズが人気を呼び、同年12月にはグッズショップもオープン。現在は、軽井沢店を含めグッズ店4店、レストラン3店舗という規模で、昨今のキャラクター人気のはしりとして注目されているお店です。

さて、そんなシードッグさんが「ミント」に着目したのは――

「うちでは1枚2000円のシードッグのステッカーが1日に100枚も売れるときがあるんです。中には5、6人のスクーターの女の子がグループでやって来て、ステッカーを買う。そして店の前で、買ったばかりのステッカーをスクーターに貼っていくんですね。」

そんな姿を見ていて「あっこれだなア」と思ったんです。そして「ミント」が発売され、パステルのカラーリングをみて、また思ったんです。これだなアって。とくに「ミント」のスイートグリーンは、うちのコーポレート・カラーとピッタリ同じでしたから(長嶋専務)というわけです。

こうしてスタートした「シードッグ・ミント」は人気も上々、7月の販売開始後ひと月で10台の成約をみています。

「やはり20歳前後の女性の方がほとんどです。中には東京から来て買ってくださる方もいます。『私だけのオリジナル』というイメージが受けているんだと思います。つまりスクーターも含めて商品というものの価値の半分は、実はその商品かもしだすイメージなんです。よね。お客さんにとってみれば……」と長嶋専務は分析します。

テレビCFの効果 をバネに、この秋も 積極拡販

一方、タイアップ企画の快調なスタートにヤル気も十分な山本社長は――

「ミントは、テレビCFもとてもいい形でお客さまの間に浸透していますね。この成果をバネに、秋口からどんどんミントユーザーを増やしたいですね。」

地域で流行っているものとドッキングしての拡販策、「シードッグバージョン」などまさにその例ですが、おかげで順調、年間150台は売りたいと思っています。ちょっと言葉は古いけど、やはり、新しい商売……



レストラン・シードッグの入口にもおしゃれなミントを展示



鎌倉・七里ヶ浜のファンシーグッズショップ「シードッグ」さんの店内。さまざまなグッズとならんでスペシャル・ミントが人気の的

もちろん、店頭で販売するのはノーマルの「ミント」。こちらは、乗りやすさ、扱いやすさで、どなたにも安心してお乗りいただける。しかもシートも大きくゆったりサイズなのでお父さん、お兄さんなど男性の方がちょっと

乗ったりするときもまったく不満を感じさせませんね。このへんをセールス・ポイントに売り込んでいきます」と秋のスクーター商戦に意欲もいっぱいです。

今まで掘り起こせなかった 新しいユーザー層を開拓してくれたミント

ユーショップ／モトショップT01（津野都一社長／東京都調布市）

さて次にご紹介するのは、東京都調布市の住宅地にオープンして1年目、この7月から店舗もユーショップとなり、スクーター販売に張り切る「モトショップT01」さん。津野社長と奥さまのまり子さんは、若い感性を100%生かしたご商売で、もっか「ミント」の拡販に精力的に取り組まれています。

お店は団地と駅を結ぶバス通り沿いにあり、周辺も住宅地とあってスクーター販売には比較的恵まれた立地。このお店を訪ねてくるお客さまは、29才という社長とお店そのものの若さが多いのが特徴。さっそく津野社長に、「ミント」の販売活動とお客さまの傾向についてうかがってみました。

「従来の売れ筋だった『ジョグ』『チャンプ』に『ミント』と『エクセル』が加わり、うちに来るお客さんに対してもキメ細かな売り分けができるようになりました。お客さまの多様なニーズに対応できる商品構成で、とても商売がやりやすいですね。



そんな中で「ミント」はどんなお客さんに人気があるかと言うと、うちでは10代の女の子ばかりでなく、20代前半のOLに良く売れています。使い方を聞いてみると、家から会社までというのではなく、家から駅までの通勤の足として主に利用されているようなので、走って2〜3kmという程度だと思えますね。

人気があるのは色でいうとパステルとか白などの明るい感じのもので、ほとんどの人がBOX付きのカスタムを買って行かれますね。いま「ヘルメット・キャンペーン」というのを実施しているんですが、7月5日からの原付のヘルメット着用義務に対する抵抗は、10代のお客さんも含めてあまりないようですね。

実際のミントのセールストークについては、私の場合は取り回しの良さを説明して、試乗してもらおうという方法で納得してもらっていますが、この辺は、私よりもウチのヤツの方がいろいろと親身になっていきますので、彼女に聞いてください(笑)ということ、ご主人からバトンが渡された奥さま・まり子さんは――

走りよりも見た目の カワイさをアピール

「同じ年代の女性でも、『ジョグ』を選ぶ方と『ミント』を選ぶ方ではまったく性格が違いますね。『ジョグ』を選ぶ人は一口で言うところかなり活発な方が多く、『ミント』はどちらかというとブリッ子というか(笑)、メルヘンチックな方が多いようです。今までスクーターという乗り物に対してちょっと気遣れしていたというか、乗ってみたいけど私には似合わないわ」と尻こみしていたようなタイプの方ですね。

私自身あまり年代が変わらないので、話し方とか見た目ですぐに区別がつかまずけど、そんな方たちですから、売る時も走りの良さや取り回しよりも、見た目の良さを説明してあげるんです。

たとえばヘルメットや小物などを出してきてコーディネートしてみせ「ほら、カワイイでしょ」なんて言うのと、ほとんどの方が納得してくださいます。

今まで活発な方の陰になって見えてこなかったような女性でも、『ミント』なら違和感なく乗れるようですね」と解説してくれました。そして最後にご主人の津野社長は、この

秋に向けての「ミント」拡販のポイントを次のようにしめくくっていただきました。
「ミントの場合は絶対的に、カラーが豊富で、好きな色が自由に選べることを強調すべきですね。店頭にもなるべく多くの台数、多くのカラーを並べるのがインパクトを強めると思っています」



奥さま・まり子さんを中央に津野社長(左)とサービスの薄田さん。「この秋も若さでスクーターを売りまくる」とハリキっている

カラフルなミントが店頭を彩る
「モトショップT01」さん





では、そんな「エクセル」の拡販策を奈良県で最初のユーシヨップ「植松自転車商会」さんにうかがってみました。ご承知のとおり天理市は天理教の本拠地。「植松自転車商会」さんは、人口6万人のこの町で創業35年のこの商売をつづけられています。

「うちの商売の90%以上はスクーター、それも主婦と学生さんが中心なんです。ここは人口6万とはいえ、そのうちの4分の1は数年前で移転してしまう移動人口なんです。こんな特殊な市場で商売を守りかつ拡大していくには外に商圏を広げていくことと、いまのお客さんを固定化することが一番のポイントなわけですね。そこで店の活動としては、アフターサービスを最重点に置いてやっていますが、実際に紹介販売が多いことをみても、この方針は地域の人に理解されているのだと思います」

そうしたご商売を展開する植松社長が、お

お客さまの固定化に 最高のスクーター「エクセル」

ユーシヨップ／植松自転車商会（植松宗勝社長／奈良県天理市）

つきは幅広い代替需要層の獲得をめざして6月から新登場した「エクセル」の市場浸透ぶりを見てみましょう。

お客さまハガキの分析でみると、ユーザーの68%は男性、しかも10代のヤングから50代以上のアグリトまで幅広い年齢層に受け入れられているのが特徴で、女性ユーザーが32%も占めている点もとくに注目されます。

また購入形態でみると男性の94%、女性の84%が代替のお客さま、それだけに通勤・男性で46%、通学・男性で29%、買い物・女性

の54%と用途もほとんどが実生活に即したものの。また「エクセル」選択の理由としては、表のようにスタイル&カラー、パワー&速さ、乗りやすさ、扱いやすさ……とすべての項目に均等しているのが特徴で、販売店の方や友人のすすめが15%と多いのも気になるところ。これらのデータをまとめてみると、「エクセル」は、その総合的な商品性の高さによって、毎日の生活でスクーターを必要とし、スクーターを知りつくした代替層を確実にとらえているといえそうです。

幅広い代替需要層を 確実にとらえ始めたエクセル

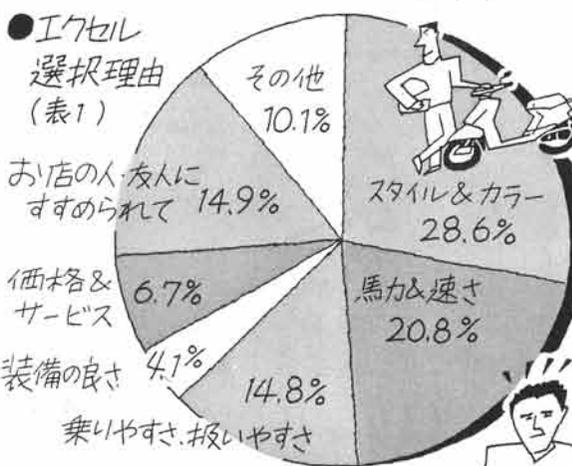


よきパートナーとして活躍する2代目の忠和さん(左)と「エクセル」の拡販に力を入れる植松社長

お客さまを固定化していくうえで商品面でい最も重点を置き、この秋の商戦でもひときわ力を入れてるのが他ならぬ「エクセル」です。「お客さんに固定化してもらおう」ということつまり確実に代替層を確保しようという事です。最初は乗りやすさで「メント」、ちょうど良い価格帯とベストセラーの安心感で「ジョグ」という具合にスクーターを買ってくださったお客さんでも、2台目もまた同じ様な車種というのでは飽きられてしまいます。

そこで代替希望で店に来てくださったお客さんには、ひとクラス上のスクーターをすすめるのですが、「エクセル」は、そんなお客さんたちにとってもすすめやすい車種です。落ち着いたカラーリングといい、パワフルな走りといいい、申し分ありません。

今までスクーターに乗っていた人たちのなかで、1度試乗してもらえば、あまりセールストークは並べなくてもすぐに良さを納得してくれそうです。あえてセールストークを言うなら「上品さと高性能を兼ね備えたスクーター。なんってお客さんには説明していますけど(笑)」先日は高校生のお客さま2人が、初めて乗るスクーターとして「エクセル」を購入。「派



手なスクーターばかりの中で、逆に地味好みの若者も増えてくるんですかね」と語る植松社長。息の長いご商売をつづけられてきただけに、「エクセル」の商品力をしっかりと見きわめ、長くじっくりと売り込んでいく自信のほどが、その言葉の端々からつくよく感じられるものです。

'86 夏全開

全国8ブロック、10会場でにぎやかに開催 Y.E.S.S.サマーフェスティバル

お客さまと、販売店さんと、ヤマハが一体となってくりひろげる年に1度のバイクの祭典・Y.E.S.S.サマーフェスティバルが、今年も全国8ブロック・10会場でにぎやかに開かれました。とくに今年はY.E.S.S.のメインイベント

となって2年目とあって、各会場とも一段と充実した内容でもりあがっていました。ここでは、8月24日開催のサマーフェスティバル・イン裏磐梯（東北ブロック）を除く全会場の模様をご紹介します。



ルスツ高原の全日本コースを使つてのモトクロスには、のべ150台がエントリー

おなじみのルスツ高原特設会場には、全道各地から470名にのぼるY.E.S.S.仲間が集合。第1日目の前夜祭では、北海道名物のジンギスカンを囲みながら地元のパイク専門誌、「DO・BIKE」の協賛によるギャルズコンテストや全員

参加のウルトラバイクズに楽しんでいるときを過ぎました。そして、その後は今年で3年目を迎えるミッドナイト・スクーターレース。日本航空杯スクーター耐久レースの深夜の熱戦がくりひろげられました。明けて2日目は、カートソ

北海道ブロック

ルスツに集うY.E.S.S.仲間

8月27-28日 ルスツ高原特設会場

前日のミッドナイトスクーターレースとならんで人気を集めたMP12レース



ーン、モトクロスゾーン、ちびっ子ゾーンの3会場に分かれてレースやスクールが開催され、吉原朋正、伊藤敦志、塩森俊修、杉山茂雄らのゲストライダーを交えて熱のこもった走りを展開。こうしてひと夏の思い出を残したY.E.S.S.仲間たちは、来年の再会を約束して、ルスツ高原を後にしました。

田沢湖ではバイクビレッジ開催

●7月26～27日 秋田県・田沢湖ミニユースランド

ブロックを3地域、3会場に分けてバイクビレッジ形式のフェスティバルとスポーツランドSUGOでのレーシング・フェスティバルを開催した東北ブロック。そのうち、特約店秋田オート懶とヤマハ東北懶の青森、八戸、盛岡、水

沢の4営業所の持ちまわりで運営されているのが北東北地区。それだけに年ごとに地方色を生かしたユニークなプログラムが組まれ参加者の人気を集めています。さて、名物ねぶた祭りや八甲田山系の林道ツーリングで

青森、秋田、岩手の各地からY.E.S.S.仲間がツーリングで田沢湖へ



人気を呼んだ青森担当の昨年からは秋田オート懶が運営を担当。会場も透明度日本一の湖・田沢湖に移しての開催です。第一日目のお楽しみは前夜祭。ユニークな語りで人気の特別ゲストいな・かつべい氏のトークを楽しみながらの夕食の後は、ゲストの鈴木秀明選手の司会による楽しいゲーム、さらに女性トリオのコーラスとつづきます。翌朝は、7時起床で体操、朝食をすませ、9時からはゲストの秀明選手、中川義博選手の指導でドライアル教室やヒルクライムなど大自然の走りをエンジョイ。参加した400名の仲間たちは来年の青森県八戸での再会を誓いあいながら2日間のフェスティバルを無事終了しました。

●参加店さん・ひとこと



フェスティバルはクラブの恒例行事
●佐弘モーターズ(岩手県水沢市・佐藤弘社長)

またサマーフェスティバルと呼ばれる前、この地域ではサマーモトリングの名称で開催されていたところからずっと参加しています。その頃からお客さまも一緒に、サマーフェスティバルと聞くと、何かうちの店を通じてきたバイク仲間が一堂に会する恒例行事、いまじゃそんなカンジなんです。今年は内容や会場も一段と充実して参加します。来年も絶対参加します。(同じ日に田沢湖で行なわれていたY.S.A(ヤマハセーリング協会)東北支部のデイングーゼンボリー会場に立寄って記念撮影)



前夜祭ではゲストの鈴木秀明選手を囲んで記念撮影のクラブが続出

700台が参加してコンペ・ライダーの祭典

●8月3日 スポーツランドSUGO



各地のフェスティバルがバイク仲間の祭典なら、スポーツランドSUGOで開かれたレーシング・フェスティバルは、まさに参加して楽しむモータースポーツの祭典。SUGOの各コースでは、総エントリー700台の熱戦が、真夏の太陽のもとでくりひろげられました。YSR50によるMP12レースやJFカートによるベア耐久レースがカートコースでも

●参加店さん・ひとこと

レース志向のお客さまサポートに欠かせぬフェスタ
●モトファミリー福島(福島市・安斉広身社長)
うちは昨年7月にオープンしたばかりですけど、スポーツ活動じゃ県下一なんて自負しているんです。クラブ員40名、もちろん全員YES.S.S.スタッフ。今日も6台がエントリーしています。僕レースやりたいんですけど、お客さんの素朴な希望をできるだけバックアップするのがうちの方針。そのために、このフェスティバル参加は欠かせません。もちろん来年も来マス!



▲ロードコースをスクーター軍団が駆け抜ける90分耐久レースは迫力満点

りあがれば、ロードコースではTZR250、FZ250フェーザーなどのSPレースに、YES.S.S.仲間の声援が送られています。中でもひととき大きな人気を集めたのが、1人でロードコースとカートコースの両方を走るスクーター90分耐久レース。ロードコースいっぱいには広がったチャンプやジョグなどのスクーター軍団が、楽しさいっぱいのフェ

ステイバルの雰囲気を一気に盛りあげてくれたものです。さらに、ポイズ80ccクラスからOBレースまで全8レースが行なわれたモトクロス。新設のトライアル場でテクニクを競いあったトライアル……とつぎつぎに新しいヒーローを生み出したレーシングフェスティバルの1日でした。

カートコースでは、YSR50のMP12レースが

レースクィーンに囲まれて大満足の表彰式



西ブロック

スクーター&YSSRレースに
5000台が熱戦を展開

●8月9〜10日 兵庫県・グリーンピア三木

六甲の山麓に広がる総合スポーツ施設グリーンピア三木、ここで行なわれた関西ブロックのフェスティバルは、他の会場と同様に前夜祭の歌あり、



翌日のレースをしばし忘れて、にぎやかな前夜祭のひとつ

若いお客さまに大ウケ、最高に楽しんでスクーターレース

●参加店さん・ひとこと

●チーム・ポリウム1 (木村商会・甲西支店 黄瀬学 店長/滋賀県甲賀郡) 今回のフェスティバルには、本店(木村満社長)とうちと合わせて10名ほどのお客さまが参加しました。特にうちのお客さまは、スクーター・レース目当ての、チーム・ポリウム1のメンバーで平均年齢17才の若さ！



一夜明ければ……いずれも地域の予選を勝ち抜いてきたツワモノばかりの決勝とあって、レース前からホットなムード



ゲームあり、キャンプありのにぎやかなものですが、なんといってもここで一番のもり上がりを見せたのは、スクーターとYSSR50によるスプリントと耐久の2レースです。2日目の早朝5時30分には、出場選手が受付けや車検のために列をなすほど。特にこのレースは事前に関西各地で行なわれた予選を勝ち抜いた選ばれたライダーとチームによるものとあってライダーの、またギャラリーの熱気も一段と高いものがあります。レースの方も水銀柱の上昇とともに白熱化。ジョグ&チャンピオンクラス、キューブ、ミント&トライクラス、レディスクラス、YSSR50クラスの4クラスに出場した88名のライダーと、60分耐久レースに



出場の140チーム、420名の熱い走りに、会場を埋めた1千人以上の観衆からヤンヤの声援が送られていました。

中国ブロック

参加者全員でゲームをエンジョイ

●8月27〜30日 鳥取県大山鏡ヶ成国民休暇村

鳥取県日野郡江府町、日本のマッターホルンと呼ばれる鳥ヶ山近くの大山鏡ヶ成国民休暇村を会場に開かれたフェスティバルには、中国地区の各地から約600名のYSSRスタッフが参加しました。ヤンググループあり、家族づれありの参加者のみなさんは、第1日目YSSRクラブ対抗ソフトボール大会やミニバイク運動会でした。そして7時30分、YSSRスタッフ代表の宣誓で開幕した夜の部では、キャンプファイヤー

を囲んでチャリティオークション、YES・NOクイズ、ちびっ子のど自慢、ディスコ大会さらにラッキーストライクカラーのTZR250の当る抽選会……とつづき、工夫を凝らした作品が会場を沸かせたYSSRオブジェコンテストまで、もりだくさんのプログラムに参加者一丸となって興じていました。中国ブロックの特徴は、すべてのプログラムを1日で消化してしまうこと。翌朝は、6時半の起床とともに、また

の再会を約束してグループごとにツーリングで帰路に帰りました。



ユニークなアイディアも作品の続出で最高に盛り上がったY.E.S.S.サイン・オブジェコンテスト

ラッキーストライク・カラーのTZR250の抽選会も

恒例のビール早飲み大会

もりだくさんのゲームに大満足！
8月21～23日 愛媛県・久万高原ふるさと旅行村



霊峰・石鐘山の西南に広がる久万高原・ふるさと旅行村のフェスティバルには、四国4県から53店のY.E.S.S.ショップと502名のスタッフが参加しました。とくに今年、スタッフの家族参加大歓迎とあって、ファミリームードいっぱいなのフェスティバルです。午後7時30分から始まった前夜祭では、長谷川嘉久、加藤文博両ゲストライダーのチャリテイオークション、フィリピンカップル10対10、ジヤンケン大会さらにキュート

やミントの当る大抽選会、花火大会、しめくくりのキャンプファイヤーと時間とともに大いにもりあがっていきます。明けて2日目は、県別対抗大綱引き大会、キュートによるY.E.S.S.ショップさん対抗レース、バランス競走、ペーパー競走、アベック競走さらにバイシクル・トライアルなどが行なわれ、全員大歓声をあげながら休む間もなくくりひろげられるゲームを満喫していました。

●参加店さん・ひとこと



期待どおりの盛り上がりでみんな大喜びです

●モトカレージDO

(愛媛県松山市・岡田庄一社長) 今年で2回目の参加です。昨年参加してとても楽しかったので、店のY.E.S.S.スタッフに声をかけてやってきました。今年はキャンプを張り会費制にして女性5名を含む、14名で参加しました。前からとても楽しみにしていたのですが、こうして参加してみると、やはり期待どおりの盛り上がりでみんな大喜びですよ。抽選のあった前夜祭もフィーバーしたし、スクーターの大運動会も良かったですね。今から来年のフェスティバルを楽しみにしています。



こちらは、Y.E.S.S.ショップ対抗レース



スタッフのみなさんはテック21・YZ F 750の前で記念撮影

初めて沖縄県のY.E.S.S.仲間も参加して

8月21～23日 熊本県・スコレ菊地高原

九州全域からのY.E.S.S.スタッフに、今年はおとくにJALジェットツーリングで参加した26台、30名の沖縄県のY.E.S.S.仲間も交えて850名が参加した。サマーフェスティバル・イン九州。

8月2日、午後7時、打上げ花火とロックバンドの強烈なビートで開幕したフェスティバルは、光安鉄美、坂口澄男両ゲストライダーのチャリテイオークション、沖縄県産初参加を記念しての沖縄特産

品即売会とつづき、大土産交換会でクライマックスを迎えます。これは約300名のY.E.S.S.スタッフがひとつの輪になり、それぞれが持ち寄ったお土産の品を交換しあうもの。参加したスタッフはY.E.S.S.仲間の想いのこめられたお土産を手にとり大喜びです。この後は、花火大会、映画会……とフェスティバルはつづき、なんと終了したのは翌日3日の午前3時というファイバーぶりでした。



ゲストライダーのチャリテイオークションにつづいて、ステージでは全参加Y.E.S.S.クラブの30秒間クラブ紹介も



選手技として披露されたアトラクション

ニューコンセプトにみるヤマハらしさ⑧ 新ジャンルを拓く“遊びどころ”



レーサーレプリカの流れからいまYSR50が、またパツソルに端を発するスクーターはジョグ、チャップなどのスプリント・スクーターへ——ヤマハならではの“遊びどころ”、“スポーツどころ”が、いっつもゼロハンの新ジャンルを拓きつつづけている。

■スポーツバイクの原点が ここにある

モーターサイクルにとって忘れてならない要素、それは“遊び心”。つまりライダーの夢を育み、ライダーでない者をも駆り立ててしまう力だ。ヤマハのビックヒット50ccたちには、いっつも“遊び心”のスピリットがあった。

“MP12”の名で全国各地で開催され、またたく間に普及したYSR50によるレース。普及の理由は簡単だ。まず50ccであるから誰もがとつきやすいこと。またスピードがさして出ないので安心ということ、YSR50のノーマル仕様ということで費用があまりかからない、ということなのだ。

また、イコール・コンディションだから、勝負はただひたすらライダーのテクニックに左右される点である。マシンの性能差がないから走る方も見る方も退屈しない。いっつもせり合う姿を見ることができる。

まだある。なんといってもカッコいい。革ツナギにヘルメット。もちろんブーツやグローブにしても、GPレースの姿と同様の本格的なウェアでこそ楽しめるし、絵にもなる。YSR50はさらに、背丈のあるライダーでもバランスしてしまう不思議な造形をもっていることも忘れてはならない。ミニバイクにありがちな滑稽さがなく、特にハンクオンをした時にピシッとときまるゼロハンである。

ひと昔前なら、ただ速ければ良い、ということではライダーのスタイルなどどうでもよかったのだが、今はマシンもウェアも、そしてライディングフォームもピシッとした上で速くなければならぬ。YSR50はそのためのベストなアイテムとして支持されているのである。

実はそういった要素だけをヤマハはとらえていたのではなかった。それ以上のコンセプトをYSR50に注入したところにヤマハのコ

ンセプト・ワークの先進ぶりがかがえるのである。それ以上とは、スバリ、本格スポーツに耐え得る本物指向のスポーツバイクとしてY S R 50をとらえた、ということだ。

60 km/h以上は出ないリミッター付の50 ccはおもしろくない。そんな概念を吹き飛ばす造り込みをY S R 50は狙っているのがわかる。たとえそれは車体にみられるのがわかるといっていい。どんなに激しいライディングを繰り返してもビクともしないフレームと前後のサス。特にリヤサスは深いバンクを与えた時にも、その挙動がつかみやすい素性の優れたもので、まさに本物。

次にブレーキ。タイトなコーナりの手前でもいきりブレーキングをしても音をあげない制動力と安定感。その効き味はまさにT Z R 250ゆずりのものといえる。ブレーキのパフォーマンスはスポーツバイクの原点である——これを、改めてY S R 50はライダーに教えてくれる。

そして高いグリップ力のタイヤ設定と50 ccを操るおもしろさを巧みに演出した絶妙のハンドリングがY S R 50のキーポイントだ。12インチという小径でありながら迫力ある太いタイヤは思いのほかグリップ力が高く、ライダーを異次元のコーナリングの世界へと導く。特筆に値するのはフロントタイヤの高い接地力だ。大人がどんなに振りまわしてもフロントはしっかりと路面をとらえている。

それに関連して、弱アンダーステアとしたハンドリング設定が、これまたベテランライダーを納得させる。軽量・コンパクトな50 ccスポーツ車にありがちなヒラヒラ感をなくし、ライダーが積極的に上半身を使って乗り込んで始めて美しく走る50 ccとしている。こうすることによって万人が、50 ccという小排気量でもマシンを操る楽しみを見出すことができるのである。

Y S R 50の開発スタッフはS R X 600 / 400やT Z R 250と同じメンバーによって構成されていることから、その本物志向ぶりを伺うことができよう。若干よこ道にそられてしまうが、Y S R 50のプレス発表会の場

でも、この開発スタッフのことに触れて二輪ジャーナリストへのアピールをより確かなものとしている。なんといっても専門誌記者たちは、単にメカだけでなく、誰が何を作ったかということにまで関心を持っているからである。プレス発表の時にいきなり90分耐久レースを記者たちに楽しんでもらったことを含めて、商品企画力に劣らぬ高い演出力をヤマハは見せた。

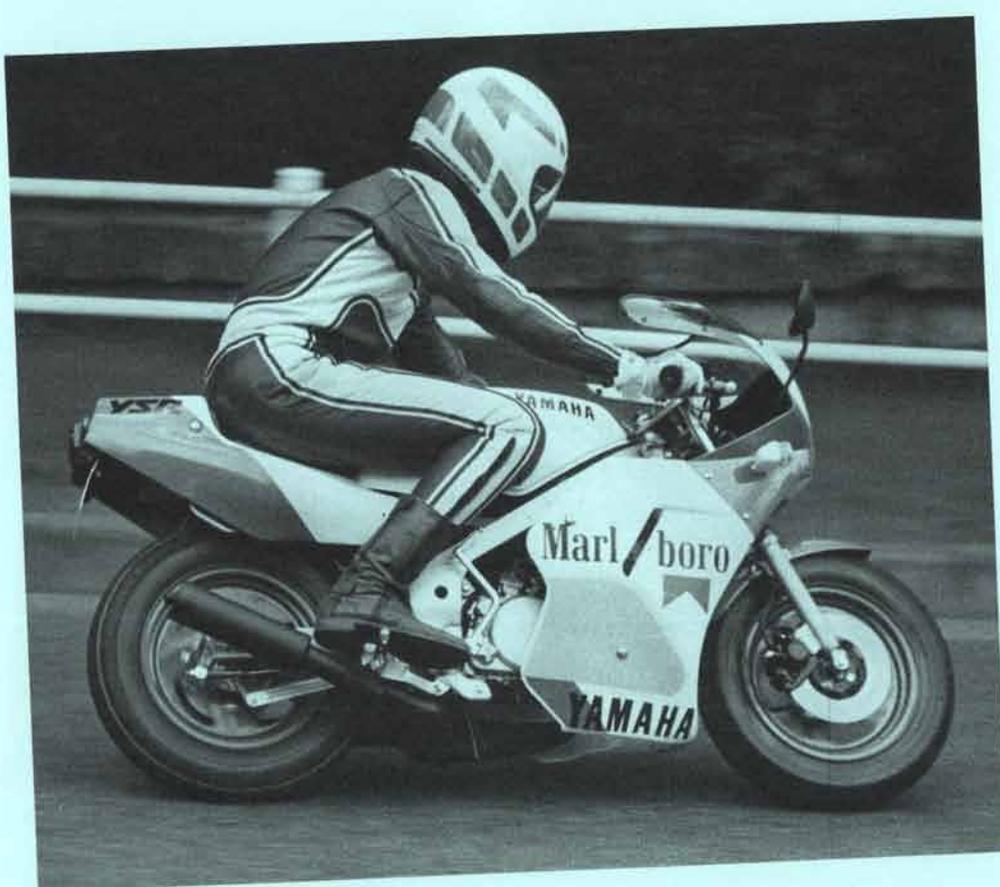
何よりも「遊び心」を大切にしたいと考えた結果がY S R 50であり、Y S R 50によるレースだったのである。

■ Y S R 50に込められた

3つの狙い

「遊び心」とはつまり楽しさ。Y S R 50を企画する背景としては3つの項目があった。まずはバイクの楽しさを知る「きつかけ」を作ることであった。次に50 ccバイクでもマシンをコントロールする味わい、つまり「テイス」があることを知らしめることにあった。

そして3つ目はカッコよさの象徴である「レ」サーレブリカ」を手に入れることである。この3つのキーワードを組み込んだ商品がY S



R 50というカタチとなって登場したのである。たしかに50 ccという排気量は、免許、価格、保険、維持費の面で魅力的だ。この点を確保した上で、「きつかけ」「テイス」「レ」サーレブリカ」をうまく取りまとめなければならぬ。

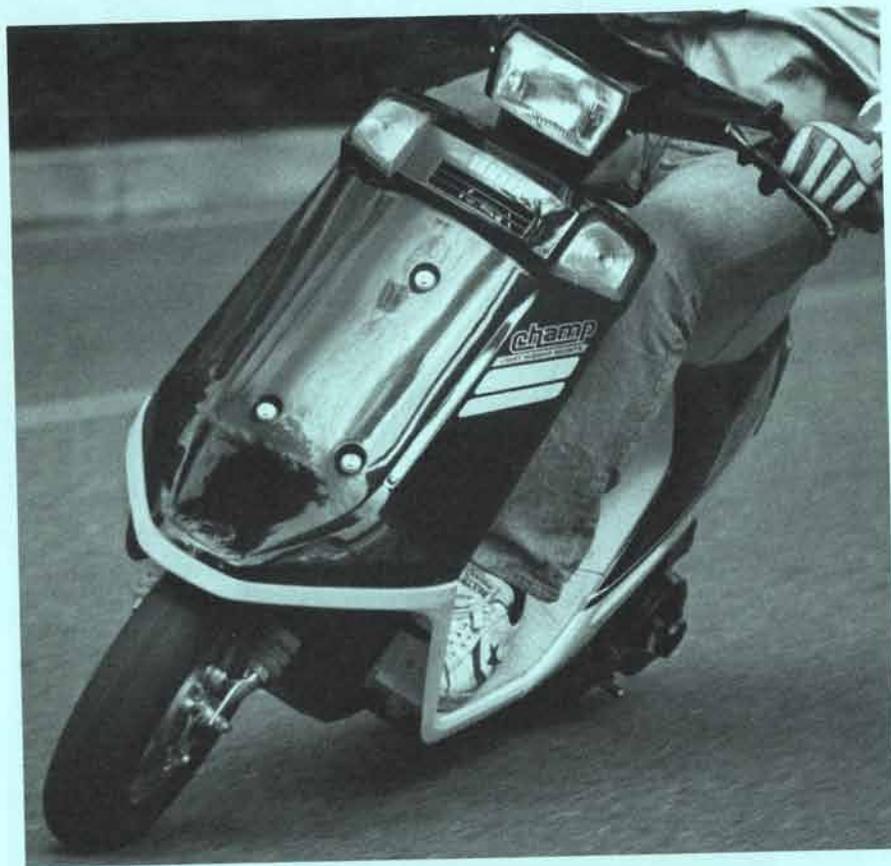
12インチホイールを採用して車格ととつきやすさをバランスさせ、クラッチ付きとして乗りこなす楽しさを演出し、さらに空冷2サイクル50 ccエンジンを採用して、ベテランにはさわる楽しさを提供しようというの。

ビッグヒットを生む条件をヤマハは知っていた。企画そのものに夢がないが、それが現実性を帯びていなければならぬが、そのためのノウハウを技術陣は2サイクルのT Z R 250で、4サイクルのS R Xで磨き込んでいた。特にY S R 50のエンジンの選択は成功であった。

353系のこのエンジン。実は72年にデビューして人気を博したF X 50やM R 50、そしてG T 50をルーツとしている。74年にはR D 50、75年にはT Y 50、76年にはG R 50とひとつのエンジンを用いてオンロード、オフロード、そしてカフェレーサーイメーজのものとしてバリエーションを拡大して、ライダーの「遊びどころ」を常に刺激し続けてきた、という実績を持つエンジンなのだ。

あえて新しいエンジンとしないことによりコストを抑制、パーツの安定供給ができ、結果としてユーザーのメリットに結びつく。この手法は前にも触れたS R やR Zにみられるヤマハ流新熟成法として、ユーザーに多くの支持を受けている部分でもある。

一方、Y S R 50のスタイリングについても見るべきものが多い。Y Z R 500のスタイルに似せたとはいえ、やはり50 ccには50 ccとして成すべき処理がある。小さい車体ながらも、量感溢れる燃料タンク、ふつくらと丸味を持たせたサイドカウルなどがそれ。造形処理の巧みさはヤマハの伝統であり、Y S R 50にも、ヤマハラしさが十分にかがえるのである。



そしてカラーリング。ワークスカラーに加え、ゴロワーズカラーの青、そして新たにマルボロカラーも加えて、「楽しさ」を本腰で求めているのがわかる。モーターサイクルはイ

メージの乗りものであり、夢が広がるものでなくてはならない。ストリートに「楽しさ」を表現したYSR50。まさにヤマハらしい発想のたまものである、といえるだろう。

■生活ナス。ポーツからス。ポーツ+生活へ

時代をリードしつづけるヤマハのスクーターたち

一方、スクーターは今、完全に生活の足として、ファッションのアイテムとして、そして若者のスポーツの道具として定着している。その土台となったのは、いまから約10年前に登場したパッソルであった。キャッチフレーズは「ソフトバイク」。ひとことであろうならば、やさしさを追求して作られたバイクで、

女性には特にやさしい乗りものとして評価され、ベストセラー車として長い間君臨した。やさしさを具体的に挙げるならば、まず確実に始動できるエンジンにあった。そしてスカートやパンタロンでも両足を揃えて乗れるステップスルータイプであること。もちろんエンジンが外部に出ていないためにクリーン

なイメージもそれに加わっている。

現代のスクーターなら当たり前のことだが、そのベース造りをこのパッソルがやってのけたわけである。

さて、近年の大ヒットといえばジョグを忘れるわけにはいかない。50ccスクーターとしての機能を完璧に持つだけでなく、加えて高いスポーツ感覚と斬新なスタイルを追求したモデル。ちょうどスニーカーを思わせるフロント固定フェンダーの丸味を帯びた造形処理が、かつてないハイパフォーマンスの動力性能と相まって若者のハートをしっかりとキャッチしたのである。

人気を博してきたスクーターレースでもこのジョグが大活躍して、生活やファッションのためだけではない新しい50ccスクーターのあり方をも提示した。

スタイルが良く、カラーリングもポップ。そして走りはパンチに溢れること。若者はこれらすべてを持つジョグに満足した。

もちろんジョグを出した後もジョグのフォローを止めていないところにヤマハらしい「商品をしっかりと熟成する」スピリットが感じられる。時代とともに車体色を変え、商品のイメージをけつして陳腐に見せないのだ。

さらにスプリント・スクーターのブームに対応してスポーツ度を高めたタイヤを標準装備するなど、キビキビとした戦略を展開しているのである。これらが大きな理由となって、商品サイクルが短くなりがちな50ccクラスでもジョグは大健闘を続けているのである。

そしてジョグに続く「走り」のスクーターがチャンプである。より鋭いタックシユ力と軽快なハンドリングを求めて、完全なスプリントにしたことがチャンプの狙いである。

ジョグよりも力強さを強調したスタイリングだけでなく、若者に強烈にアピールするためにツートンカラーを採用したり、しゃきつとしたメリハリのある大型ステッカーを貼ったり、ブラック塗装して精悍さを強調した前後のホイールなど、ジョグとは違って明らかにヤング男性ユーザーに的を絞っている。

時代はまさに絞り込みの時であるから、こうした思い切った商品構成は、かえってユーザーにとって気持ちいい。スクーターを選ぶ時に非常に明快だからだ。

そして好調のチャンプに80ccが加わった。50をベースに排気量を30ccプラスすることにより、より高いスポーツ性と生活上の利便性を向上させようというもの。車体構成そのものは50をベースとしているが、フロントサスをグレードアップして、よりしたたかな走りに耐えられるようにしてある。

ターゲットは50ccスクーターのユーザーだけでなく、自動二輪の免許を持っている人のセカンドバイクとしてもアピールしようというもの。1人あたりのバイク保有台数が増加する傾向を見せる現代においては、まさに適確な判断によるバリエーション展開といえるだろう。

さらに加えるなら、50ccよりも少しばかり排気量アップして原付二種とするのではなく、共用設計のギリギリまで排気量アップすることでチャンプが狙っているハイパフォーマンスを達成しようというのである。同じ原付二種であるなら、より排気量が多い方がいい。ユーザーのそんな心をしっかりと捕えた排気量がこのチャンプ80なのである。

もちろん乗車定員は1名。テーマはよりスポーティに走ることであり、実用生活性を求めたものではけつてない、という明快さがユーザーにストリートに伝わってくる。

よくよく考えてみるとYSR50もジョグも、そしてチャンプも、従来の50ccバイクにみられた生活ナススポーツから、今はスポーツ+生活といった形でとらえられている。すでにウエイトは完全に「スポーツ」である。時の流れを常に先へ先へと読み取り、それを高い次元（優れた操安性とダイナミックなパワー特性の両立）でまとめ上げるところにヤマハの50ccバイク造りの巧みさがある。ヤマハの優れたデザイン力とともに、その巧みさの最頂点がYSR50であり、ジョグであり、チャンプなのである。

(山本一成)

フオロー・ザ・トレンド

仕掛人が語る若者たちはいま

選ぶ目とひびひなりする若者たち 自己表現する若者たち

名刺といえば白い紙に黒い文字、というイメージはだんだん崩れてきました。写真入りや色刷りのものなど、さまざまなスタイルがとり入れられて、名刺ホルダーもグンとにぎやかな感じがします。

それでもまだ一般的には名刺は社会人が持つものと思われている人が多いはず。ところが最近は大學生や高校生が名刺を使っているとか。東京池袋の西武百貨店にはそういった若者に人気のショップがあるというので、さっそくお話を伺ってみました。

■名刺を持つ高校生

「このショップはデザイン・ポートとなっていますね。」

「ええ。ネームカード、キーホルダー、手帳、サイフ、レターペーパー、封筒、招待状などを扱っており、それらにお客様の好みのデザインをした名前や住所を入れてさしあげます。」

その他のラッピング（包装）やカード、プレゼント用小物などの売り場も含めてこの一角を「グブテリア」と呼んでいます。言い方を変えれば「コミュニケーショングッズ売り場」となりますね。

「ネームカードというのが名刺に当るわけですが、高校生が注文するんだそうですね。」「そうですね。私もも考えていなかったこととして（笑）、高校生がなんで名刺を使うんだって思いますよ。ところが、考えてみればごく当り前のことなんです。高校生にだって付き合いはありますから。自分を人にアピールするのに便利な道具だから社会人も使

デザイン・ポートでは、プラスチックや色つきのものなどカラフルで个性的な名刺が簡単につくれる



っているんであって、職業をもたないからといって使っちゃいけないことはないはずですよ。」

「名刺や封筒は昔からあるもので、今でも町の印刷屋さんにお願ひする人が多いと思いますが、そういう場合とどう違うんでしょう。」

「まず単位を小さくしました。名刺ですと、100枚単位だったものを20枚から受けるようにして、価格も低く押さえてあります。1200円からですね、今は。さらに用紙をカラフルに、しかもプラスチックなど紙でない素材も取り入れられました。プリントの色も従来の感覚にとらわれず、自由に選べるようになっていきます。またコンピューターグラフィックによるデザインも可能ですから、お客様の好みがあつと強く出せるようになったわけです。」

西武百貨店商品事業部 レジャー文化関連部
取締役部長 牧山圭男氏



オリジナル・テレホンカードも人気。これもコンピューター・デザインを使って美しいデザインが誰でも手軽につくれる

つまり、印刷屋さんをファッショナイズ化したといえると思います。」

「なるほど。ファッショナブルな印刷屋さんですか。それはいつ頃からでしょうか。」

「昭和56年でした。当時はコミュニケーションショップと呼んでいましたが、最初から高校生が飛びついてきたのですか？」

「いや、女性ですね、高校生というよりは若い女性の反応が早かったです。」

「やっぱり（笑）。待っていたんでしょうね、そういう店ができるのを。」

「そうですね。印刷物もそうですが、古くからある商売の分野、いわゆる慣例マーケットですね、これをファッショナイズすると成功します。まだまだそういう分野は残ってい



（牧山圭男氏プロフィール）昭和13年東京生まれ。慶応義塾大学卒業後、ヤナセ入社、営業マンとして優秀な成績を残す。昭和45年西武百貨店入社。昭和53年から58年までレコード販売会社、ディスクポートの常務を勤め、昭和58年より西武百貨店に就任。遊び、関連商品の仕入れを担当。売り場のファッション化を計り、若者の人気を集めている。現在もディスクポートとSMS（レコード会社）の役員を兼務。

ますよ。」

■自己実現のためのグッズを提供

「そういう面で成功された売り場は他にもあります。」

「私は、遊び」に関する商品の仕入れを担当しておりますので、その範囲でお答えすると、クリエーターズスペース、デコル、ディスクポートがあります。」

「クリエーターズスペースとは？」

「彫刻や木彫、陶芸などの若手作家の作品を置いてあります。その他にもプレゼント用の美しく仕上げられた品物を揃えています。人気ありますよ。」

「そういう作品は見るだけでも楽しいですね。デコルというのは何でしょうか。」

「インテリアの小物です。面白いものを集めています。もう一つのディスクポートというのはレコード売り場です。ここは全国で5本の指に入る売り上げをしていますが、その中にミュージック・ブレンドというコーナーがあります。廃盤、貴重盤を著作権などの法律面をクリアしたものに限ってカセットテープにコピーしてあげましようというわけです。これも喜ばれていますね。」

「いずれもユニークですがこれらに共通する要素というのは、何でしょうか。」

「ひっくるめていえば、自己実現のためのグッズを提供しているのです。どれも個性を發揮できるものでしょ。名刺にしる、作家の作品にしる。」

「しかし、自分で作ればもつと個性を發揮できるように思いますが。」

クリエイターズスペースに並ぶ作品はどれも個性豊か。
夏場はガラス素材の涼しげな物に人気が集まるとか



「名刺を自分で印刷するのは難しいですよ、彫刻にしても陶器にしても。あなたでできますか? (笑)」
気のきいたプレゼントをしたいと考えてる人にとって、「ああ、こんな面白いものがあつたのか」という品物であれば十分なんです。プレゼントでないにしても、これを捜し出したのはオレだっていうところで個性を主張できるんじゃないですか」
「100パーセントオリジナルでなくてもよいということですか」
「そうです。世界中にエリザベス女王と私だけっていうんじゃない、オートクチュールですが、それは50万円もしゃう(笑)。だから完成品、半完成品の中で、どれだけ自分の方へ引っぱ

れるかってやるんです。テニスウェアでいえばフィラやエレッセばかりだと、その中で違うものを捜すわけです。他と違うものがあれば売れるってことです」

■若い人は背伸びしたがる

「そういう珍しいものを捜してくるのは大変だし、コストもかかりますでしょう」

「それは仕方ありません。そうしないと売れないんですから。以前のようにそれミニスカートだっていうんで仕入れればドットと売れる時代ではないんです。魚とりにたとえれば投網を打った時代から今はルアーに変わったということですか」

「他の人と違うものを、作るのではなくて捜すんですね、若い人は」

「そうです。自分のチョイス——選ぶ目と、ひとひねりする知恵とで自己実現するわけです。どうやって他の人と違う人生を送るかっていうことが今は大事なんです。だから私どもはその自己実現のための道具を揃えなくてはなりません。しかも安くね」

「なるほど。ヘルメットでも半完成品にコンピュータデザイン塗装がでるものがあるって人気を呼んでいますし、バイクもスペースを残しておくユーザーが好きなステッカーを張って楽しむ傾向があります。それも自己実現といえましょうか」

「そうそう。名刺もそうです。人と違ったものを持ちたいわけですよ。完全な手造りでなくて、メジャーな力を借りて自分を表現するんです」

「その他のショップも含めて、若者の反応で何か特徴的なことはありますか」

「昔からかもしれませんが、若い人は背伸びします。ですから20歳ぐらいの人を対象にした店作りをするとハイティーンの子にうけますね。ハイティーン向けのつもりで品揃えをするとローティーンが来ます。そうすると店が荒れるといいますがカキつぽくなってしまうから、いつでもちよつとませた子が来

るような店作りをしています」

■バイクもハイタッチ時代

「ちよつと難しいぐらいでちよつといいわけですか」

「そうです。バイク屋さんでもそうではありませんか。がんこオヤジの店でよく売れているっていう場合はそうじゃないかと思えます。お前にはまだ難しいだろうが、まアがんばって乗りこなしてみなっていう調子がいいいでしょう」

「このヤマハハニユースの前々号で川崎徹さんもおっしゃってますが、若い人たちにぴったり合わせるとバカにするようなところは感じますよ」

「バイクでの自己実現っていう面ではどうでしょうか」

「以前に六本木のウェーブを作るとき、作曲家の武満徹さんが面白いことを言っていました。戦後しばらくはテクノロジーと人間の感性が合っていた。ところが月面に人間が立つ時代になって人間の感性が遅れてしまった」と。現在はハイテック(高度技術化)全盛ですが、その技術と感性の間を埋めるものが必要です。いわゆるハイタッチ(高度な人間的



音楽の切り売りサービス、貴重なレコードをタビタビしてくれる「ミュージック・ブレンド」のコーナー

アンティーク小物やちよつと変わったインテリアが揃う「デコル」。まさに自分だけの発見の宝庫……といったところ



「感覚」ですね。情緒的な面といつてもいいと思います」

「バイクはハイテックな商品ですから、これをどうハイタッチにするかということが売れる人の役目でしょう。作つたのはヤマハだけど、恋人が編んでくれたレッグウォーマーがついている——仮説ですけど——となればこれは情緒的価値があるわけです。具体的にはいろんな方法があるでしょうが、できるだけ商品ををそういう風に見せることが売れるコツだといえますね」

「はあ、レッグウォーマーですか(笑)。他の価値をプラスすればコストは上がりますが、どれぐらい高くなっても買ってくれるものでしょうか」

「無限です(笑)。誰でも覚えることですが、欲しいものに注ぎ込む金は惜しくありません。狂食代を削つても高級な四輪車を買うわけですよ、若い人は。テニスウェアの例では一般的に5割増しぐらいは平気でしょ、他人と差別化できるならね」

ユーザーのバイブルとして読まれ、市場のオピニオンをリードしている2輪専門誌。販売店さんにとっても生きた情報満載の2輪専門誌の中から直接、間接にご商売にお役立ていただけそうな記事をピックアップし、毎月お届けしています。

くちコミ起爆剤



『たとえTZRが現われてもオールゼットの存在意義は絶対にある……嬉しいことにそう想い、願いつけてきたのは我々だけではなかった』

今月も二輪専門誌各誌では、ニューモデル試乗記が誌面を賑わせていますが、その中で目を引くのがニューRZ250Rに関連した記事です。

とは月刊「ライダースクラブ」の試乗記を紹介したページのリード文。この一節が代表するように、8月発売の各誌は、さまざまな角度からニューRZ250Rに賛美をおくっています。ここでは、その中から特徴的なものをピックアップしてご紹介しましょう。

記事1

一見目立たぬようだが、実際にステップアップしたRZ・Rの全体の性格は、繰り返して述べてきたようにあくまでこれまでのRZ路線に踏みとどまっており、オーソドックスなコーナリングの様子はモーターサイクルの基本を知るうえで貴重な存在である。スバルタンでタイトな感触も残されているが、ドラステックな乗り味ではなく、もっと洗練されたマナーの良い乗り味だから、TZRのような刺激は得られないかもしれない。しかし刺激にリスクは付きものである。そのリスクを克服する自信がない場合、真面目にMCの仕組みについて取り組んでみるのが先決であろう。持つことに喜びを得たなら、次は操る喜びを知るべきで、そのための優秀な教材として、まさしくRZの存在意義が出てくる。加えてエキスパートにとっても、RZがここまでストーリーを重ねてきたからこそ得られるこの絶妙なフィットネス感覚は、極めて大きな魅力であろう。

まずはビギナーが2番目に乗るべきマシンとしておすすめしたい。……もしかすると、もう3番目を選んで

ふ必要のない幸運にも、巡り逢えるかもしれない。

記事2 「ライダースクラブ」9月号

86RZのデザインコンセプトは、初代RZから大きな変化なく流れてきている。ここが大きなポイントとなるのだが、誰が見ても、確実にRZと映るデザインは、86年の今、初代RZを見ても古さを感じさせない。つまり、長い間乗り続けても、自分のRZに対し、誇りを持つていられる雰囲気を作りだしている訳だ。つまり、周囲を気にすることなく、長い間お友達(愛人関係?)として保つことを精神衛生上可能としている。そして、既に神話を築いてしまっているRZに便乗して、違いの分かるライダーと見られるこ



とも出るといふ特権もある……? 常に不変的傾向を持つデザインが、RZのRZたる所以なのである。これは基本デザインの先見性、獨創性がある、はじめて可能となることであり、ただのレプリカであったら成すことのできない業といえよう。

記事3 「ザ・バイク」9月号

6年間の歴史を積み重ねてきたRZ。時代の流れとともに、ナハンキラーの伝説は消えた。だが、カリカリと速さばかりを追わず、スポーツバイクの真髄を教えてください、そんなニューRZは円熟の2サイクルだ。いま、新たなRZ神話が始まろうとしている。(中略)

安易にすべてを新設計としているのではない。83年デビューのRZ・R、さらに元をたどれば80年代の初代RZからの蓄積が生む、完成された高性能と乗りやすさ。ここに価値があるのだ。そして、だからこそ可能となった399,000円の価格には、拍手を送りたい。

「モーターサイクリスト」9月号

モーターサイクリスト
Best Bike
ベストバイク
RIDERS CLUB
オートバイ
ロードライダー
RIDING SPORT
ザバイク
The Bike
GOGGLE
モーターサイクル
カンガブリン

情報スクランブル
お忙しい販売店さんのための情報アンテナ

BOOKS

●秋は大自然を満喫

『バイクで森へ行く』

アウトドアスポーツとかアウトドアライフなどという言葉は聞くと、大袈裟な装備をもってする森林生活者を連想してしまいがちですが、実はちよつとそこまでの短距離ツーリングも、立派なアウトドア・エンジョイ法のひとつです。この本は、そんな何気ないツーリングの世界を何倍にも広げてくれる智恵袋。大自然と親密になるためのノウハウが、美しいイラストとともに満載されています。林道ツーリングファンだけでなく、オンロードファンにもぜひ一読していただきたい一冊です。
飯田おさむ著・イラスト佐々木けいこ／山海堂¥1000



●本気で走りたい人のために
『気分はGPライダー／レーサーレプリカテクニク』

『TZR250』や『FZR400』などの、レーサーレプリカと呼ばれるマシンを楽しく乗りこなすためのハウツー本です。内容はライディン

グを格好良くキメるための服装からオリジナル塗装の手引きまでと幅広く、中でもユニークなのはケニー・ロバーツ選手や平選手など有名ライダーのフォームを分析し、そのテクニクを拝借するなど、今までにない手法で運転技術が紹介されていることです。

GPライダー気分ですポーツバイクを楽しむ、そんなお客さまに、ぜひおすすめてください。
柏秀樹著／三推社・講談社 ¥850



WAVE MUSIC SENSOR

強烈な日射しもいく分和らぎ、秋はもう目の前といった感じ。店内の様態替えと一緒に、BGMもカルチャー気分いっぱい落ち着いた雰囲気のものに変えてみませんか。レコード情報の提供は、東京・六本木にある日本一のAVソフトショップ、『ウェーブ』です。

●秀節感の演出にピッタリ

『VICTORIALAND』
(ビクトリアランド)

イギリスのマイナーシーンから登場し、幻想的なサウンドで一躍トップグループにのし上がったコクトー・トゥインズのニューアルバムです。ちよつと暗めですが、心の落ち着く透明感あふれるサウンド、まさに芸術の秋にピッタリのBGMです。



●美しい感性と熱い歌心の結晶
『凍てついた世界へ』

ニューウェイブバンドとして注目を集めた『パウハウス』のリーダー、ビーター・マフィー初のソロアルバムです。クールな音楽性と端正なルックスを備えたビーター・マフィーの存在は、イギリスが生んだ久びざのロックスターとして、早くも大きな話題を呼んでいます。



COMMODITY

●伸縮自在でピッタリとフィット

『ダンロップ・スポーツバンテージローローバ』

従来の伸縮性包帯と粘着性包帯の利点を結合させた新しいタイプのスポーツ包帯です。これまでの粘着性包帯の欠点であった通気性や吸湿性

にも優れ、装着時のゆるみやズレもなく、ケガの予防や再発防止のバートナーとして、あらゆるスポーツに適応できることが特徴です。激しい動きを要求される、モトクロスなどにも最適ですね。(幅25%、60%、80%の3サイズ)
お問合せ (株)住友ゴム工業
☎078(231)4141
¥1000

●万能水密ポシエツト

『カプセル・カプセル』

大切な物を雨や水、湿気や泥ホコリなどから守る、とても便利でオシャレな気密ポシエツトです。カラフルな色と強靱性で、



EVENTS

●妙技の連発

『86インターナショナル・スーパースタジアム・トライアル』

国内のトライアルファンにもすっかりお馴染みとなったスタジアムトライアルが、今年も開催されま

アウトドアスポーツやマリンスポーツはもとより、タウンファッションとしても楽しい小物。店名を入れればお客さまに喜んでもらえること確実の、プレミアムとしても使えます。
お問合せ (株)日本プランニング ☎045(984)2121
希望小売価格 ¥800

す。会場は昨年と同様、東京・代々の国立競技場・第一体育館。国内外のトップライダーによる妙技を、お客さまと一緒に堪能してください。開催日 9月27日(出)・28日(回)／お問合せIIフジテレビ国際スポーツフェア事務局チケットセンター ☎03(359)1122

MFJスポーツ協力店となって 地域のスポーツ・レジャーをリード!

モータースポーツの底辺拡大のための活動を通じてスポーツバイク市場の健全な基盤づくりを推進しようと今春からスタートした日本モーターサイクル協会(MFJ)の新活動。二輪業界あけてのこの活動を、その中心となる販売店のみなさまにしっかりとご理解いただくためのコーナーです。

今月はその第2回、販売店さんが新組織の一員として活躍するための資格“MFJスポーツ協力店”についてご説明しましょう。



こうしたクロード競技会の承認競技会としての開催も可能に

QMFJスポーツ協力店とは、どんな位置づけのものか?

A今年から各都府県ごとに設けられたモーターサイクル・スポーツ協会(通称・県協会)の活動窓口、それがMFJスポーツ協力店です。別掲のポスターは、MFJスポーツ協力店の店頭ポスターですが、そのキャッチフレーズ“モータースポーツするキミのアドバイザー”がスポーツ協力店の役割。モータースポーツを志向する地域の二輪ライダーやライダー予備軍のアドバイザーとして、文字通り底辺拡大の推進役となるものです。

QMFJスポーツ協力店になるには、どうすればよいのか?

A所定の加入申込み書に必要事項を記入のうえ、入会金5000円と年間協賛金15000円を添えて県協会に申込みます。販売店さんの支店等も原則として一店扱い。申込みが受理されるとポスター、店頭ステッカー、車輛ステッカーやカウンター立てなどMFJスポーツ協力店に必要なツールがMFJから直送されます。同時に全日本選手権レースなどの速報や月刊誌『ライディング』も直送されることになります。

QMFJスポーツ協力店になれば、どんな活動ができるのか?

A県協会に関するものでは、県協会会員の募集、入会受け、承認競技会や承認行事の開催や参加者の募集・受けなど。またMFJ関係ではMFJ競技ライセンスの申請や更新の手続きがあります。

また、こうした事務手続きとあわせて、さまざまなモータースポーツ情報の提供、全日本選手権レースなどの前売入場券の販売、MFJオリジナル用品の販売なども行なえることになっています。

なお、県協会個人会員の入会手続き、Bライセンス申請、MFJ競技ライセンスの申請や更新の手続きについては、1人当たり500円の手数料金がMFJスポーツ協力店に支払われることになっています。

Qお客さまが、県協会の個人会員となるには?

A年会費2000円を添えて、MFJスポーツ協力店に申込むわけですが、これで初めて県協会が主催する各種承認競技会に参加でき

ることになるわけです。

QMFJスポーツ協力店の最大のメリットは何だろう?

A入会手続き等の手数料も去ることながら、MFJスポーツ協力店の最大のメリットは、承認競技会の主催権でしょう。主催者として県協会に登録されたMFJスポーツ協力店が主催するミニバイクレース等のクロード競技会(ライセンス昇格に関するランキング・ポイントに関係のないもの)は県協会を通じてMFJ承認競技会として申請することができます。そして、これが認められると店のイベントはMFJ承認競技会として開催(当然参加者は、県協会の会員であることが要件)され、万一の事故にもMFJ共済保険制度が適用されることになるのです。

以上のように、地域の二輪ライダーとライダー予備軍のための最良のアドバイザーとしての機能をフルに発揮し、また承認競技会の開催によって地域のレジャー・スポーツ活動をリードするMFJスポーツ協力店。それはまさに、これからのスポーツバイク販売にとって欠かすことのできない条件といえるでしょう。

QMFJスポーツ協力店の加入状況は?

AMFJの発表によれば8月末現在で約400店。目標の10%の販売店さんがすでに加入されています。

※次回のこのコーナーでは、新しいMFJ活動のカナメであるBライセンス講習会についてご説明します。

本場GPの大迫力の中で 応援しました平選手!

この夏のYESSのスペシャル・プランとして企画されていた。ガンバレ平ノ、世界GP観戦ツアーが、全国から24名の参加者を集めて予定どおり8月5日から13日までの9日間に渡って実施されました。

されたスタッフのみなさんも大満足。とくにスウェーデンGPでは、2500ccのカルロス・ラバード選手とヤマハYZRを駆る2人が世界チャンピオンを決めるという決定的瞬間に立会えたこともあって、「一生に一度あるか、ないかのチャンス、本場にラッキーでした」とみなさん感激にひたっていました。



熱狂的なファンの声援の中でくりひろげられる大迫力の世界GPレースをまのあたりにして、みなさんのロードレース熱も急上昇



すっかりGPライダーぶりが板についた平選手(右から3人目)を囲んでの夕食会。こんなに近くで平選手に接することができて感激です。思っていたよりずっと気さくな人なので改めてファンになっしまいましたというツアー参加者が続出



「今回は新婚旅行で参加しましたが、日に迫るレース当日に胸がワクワク、ドキドキ。ローソンとラバードのタイトル決定が最高のお土産でした。またバリとコペンハーゲンでショッピングが楽しめたのも良かったですね」と鳴津義明さん、日出子さんご夫妻

レース観戦に加えてバリとコペンハーゲンの市内観光も人気を呼んだ(ノートルダム寺院前で)

「大好きな平選手に会えて、本場のGPレースも見られて大満足です」という平田進君(左)は北海道から参加の中学二年生



にぎやかに、なごやかに…… 大盛況のレディス・ツーリング

〔ヤマハ東京(株)南営〕めざましい勢いで増えつづけているスポーツバイクに乗る女性。そんな女性ライダーだけを対象としたスポーツ・イベントもここにきてグッと目立っています。ここに紹介するレディスツーリングもそのひとつ。

東京・渋谷の「YSP渋谷」(我妻ルミ店長)さんが、去る7月19・20日の2日間に開催したヤマハマリリーナ浜名湖へのツーリングです。女性向け二輪専門誌「レディス・バイク」などを通じて参加者を募ったこの催しには、首都圏から50名の女性ライダーが参加しました。東京から東名高速道路を走って浜名湖まで約250キロのツーリング

を楽しんだ後は、ブルルやテニスコートなどヤマハマリリーナ浜名湖の施設でスポーツをエンジョイ、また夜のパーティではヤマハの開発スタッフをまじえての懇談会や抽選会などを楽しんでいました。また2日目は、折りからの雨の中を浜松の新名所・竜ヶ岩洞へツーリング。女性ばかりのにぎやかで、なごやかな2日間のプログラムが参加したみなさんの好評を呼んでいました。



東名高速道路を走って一路浜名湖へ



*YSP渋谷、さん主催のレディス・ツーリングには、50名の女性ライダーが参加



夕食会にはぎやかにバーベキューパーティ

皮ツナギを着水着に着がえて、やっぱり女の子……デスネ

YESSSスタッフに 爽やかなマリリーナスポーツを!

〔ヤマハ東京(株)柏営〕柏営業所管内のYESSSショップ・6店さんから45名のスタッフが参加して、7月6日、YESSS・サマーミーティング・イン・シーボニアが開かれました。

これは、普段スポーツバイクを楽しむYESSSスタッフのみなさんにヤマハのもうひとつの顔・マリリーナを楽しんでもらおうというもので、神奈川県三浦市までのツーリングに、シーボニア・マリリーナからのヨットクルージングをプラスしたのも、同営業所では春の帆船シナラ遊覧につづくマリリーナスポーツ企画の第2弾です。

絶好の海日和に恵まれた当日、シーボニアでYESSSスタッフを待ち受けていたのは54フィートの大きな誇るレーシング・ヨット。サンバ



夏の日、ツーリング+マリリーナ・スポーツを満喫したスタッフのみなさん



こちらはリッチな気分でクルージング



スタート前は元氣一杯のYESSSスタッフたちも

ードVと30ノットの快速で走る38フィート・パワーボートは、はぶさの2艇。
まずはブルルガーデンでバーベキューパーティやゲームを楽しんだスタッフは、パワーボートへ。日頃からスピード感を満喫しているはずのスタッフもパワーボートの疾走に圧倒されて声もない30分。これでも全開じゃないんですヨ。これの話に一同ア然。その後は一転ヨットクルージングで興奮をなごませ、リッチな気分。水平線に沈む夕陽を眺めながら、貴重な初体験に大満足の日でした。(S・Lマン・石塚)

好評です、

LVスタディ・システム

〔ヤマハ九州機大分(機)ニューメディア時代の原付免許自習システムとして今年から導入したレザレビジョン・LVスタディ・システム〕が、いま全国各地の販売店さんで好評いただいています。

4月末からこの「LVスタディ・システム」を導入した、九州は大分市の板井モーターズさんでも「お客さまが誰れに気がねすることもなく自習できるのがいいですね。このLVスタディ・システムでひと通り学んで、その後テキストを通読すれば理解も倍増。店の負担がほと

んどないのもメリットです」と板井省三社長。

またお客さまの間でも「ゲーム感覚で知らず知らずのうちに交通のルールが解かるのがいい。また画面選択がくり返してできるのでとても効率的です」と好評。

こうして板井モーターズさんでは、導入から3ヵ月間で30名にのぼるお客さまが、この「LVスタディ・システム」で学習して原付免許を取得。これまでに地道に続けてきた原付免許教室が、地域の人びとにまた新しい話題を呼んでいます。



お客さまコーナーにおかれた「LVスタディ・システム」。学習するお客さま自身がリモコン操作しながら自習する。左が板井社長

エキサイティング・フォール開幕 ロードレースの話題満載の秋

この秋の日本列島はビッグなロードレースの話題でいっぱい。きっとお客さまの関心も急上昇することでしょう。

まずトップは、話題の世界GPドキュメント映画「ブライド・ワン」の公開開始です。全国の東映系映画館でロードショー公開されるこの作品には「キング、ケニーをはじめ、過去10年間の名ライダーと名勝負がいっぱいです。(写真下)

また9月13-14日の両日、鈴鹿サーキットで行なわれる'86全日本シリーズの最終戦・日本グランプリロードレースも注目の的。世界GP帰りの平選手が500ccクラスに登場する他'86年250cc世界チャンピオン・ラバード選手も出場予定です。

日本GPから1週間後の9月20-21日には富士スピードウェイで「スーパースプリント'86フジインターナショナル・ロードレース」が開かれます。500cc、250ccの2クラス、2ヒート制でのこのレースには、R・マモラ、M・ポールドウィンら世界GPライダーも多数出場。フィスコでは19年ぶりのビッグ・ロードレースとあって、一段とスリリングな展開が期待されています。

そしてクライマックスは、10月5日、スポーツランドSUGOでのTBCビッグロードレース。第14回を迎えるこの大会には、もちろん世界一速い男E・ローソンも出場。マモラ、ポールドウィン、C・サロン……と'86世界GPを彩った強豪たちが迫力満点のレースを再現します——どうぞご期待ください。



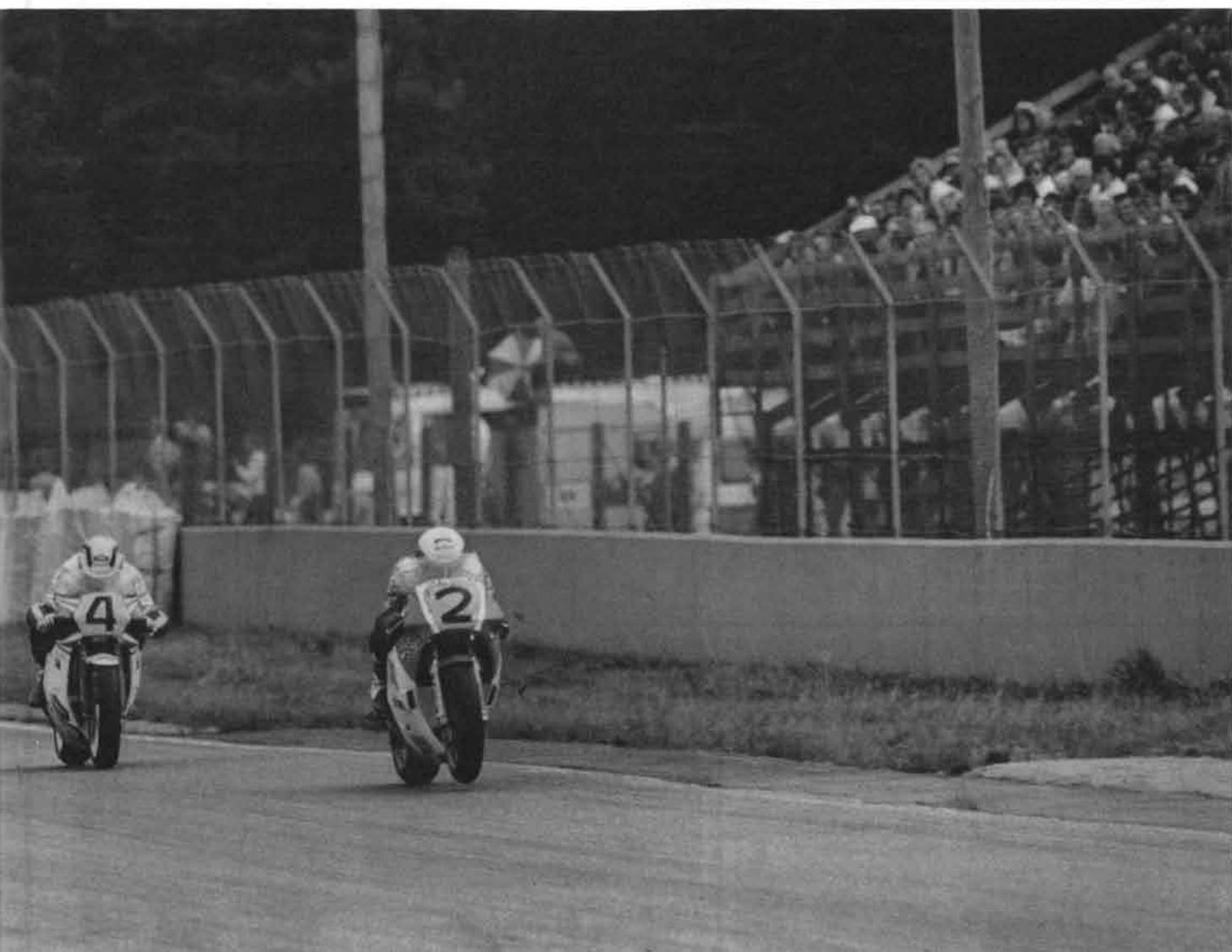
去る7月27日には、相模川河川敷の会場に一般クラス55台、女性クラス7台を集めて第3戦が行なわれましたが、初めての人や女性でも、運動会っぽい雰囲気を楽しめる、と大人気。9月23日の第4戦、さらに11月に最終戦が開催される予定です。

女性ライダーの集まるお店として知られる神奈川県相模原市の「アクロス(加藤裕子社長)さんでは、ファミリーバイク・エンデューロレースをシリーズで開催しお客さまの人気を集めています。これは「50ccノーマルの一般市販車で足にチェーンジベタルやブレーキペダルがなく、ハンドルに前後のブレーキレバーが付いている二輪車」によるオフロード耐久レース。

ダイニングタイプヨットの「ヤマハ14 シーホッパー」が先頃10000隻目の生産を達成、記念すべきセールナンバード000の艇が岩手県大船渡市のヤマハ大船渡製造所でラインオフしました。昭和50年3月にシーホッパーの生産を開始して以来11年目で達成した10000隻生産。もちろん同一艇種としては日本最多の生産記録です。シンプルで幅広い人気を集めるシーホッパーの特徴ですが、これを活かして昭和63年に開催される京都国体から、このシーホッパーが、成年男子二部の競艇艇としても採用されています。



ヤマハ14 シーホッパー
10000隻生産を達成!



■'86世界選手権ロードレースシリーズ

ローソン、ラバードそろってチャンピオン決定

YZR2クラス制覇

500cc.はヤマハ、メーカーチャンピオンも!

全日戦にわたって激しいタイトル争いを展開している'86世界選手権ロードレースシリーズは、7月20日・フランスGP、8月3日・イギリスGP、8月10日・スウェーデンGPと終盤の3戦を終了した。500ccでE・ローソン、250ccでC・ラバードと両クラスともヤマハYZRのランキングリーダーが、終盤に入っても依然好調。スウェーデンGPで今シーズン4回目の同時優勝を決め、8月24日の最終戦サンマリノGPを待たずに、そろって2度目の世界チャンピオンを決定した。ローソンは'84年、ラバードは'83年以後のタイトル奪還。また500ccクラスでは、ローソンはじめマモラ、ポールドウン、サロン、マツケルナらが上位を独占してヤマハにメーカー選手権をもたらしている。

タイトルの行方を占ううえで注目を集めた終盤3戦の開始、7月20日のポールリカルサーキット。この日は500ccでローソンが2位のマモラに12秒もの大差をつけて圧勝。以下サロン、ポールドウンとYZR勢がつづいてヤマハつよし、を印象づけた。つづく第9戦のシルバーストーン、第10戦・アンダーストープはいずれも不順な天候の中で行なわれたが、イギリスGPで3位に終わったローソンは、スウェーデンでガ然ハッスル。ライバル・ガードナーにじつに16秒差の圧勝で、2年ぶりのチャンピオン奪還に華を添えた。全10戦のローソンの内訳は、優勝6回、2位2回、3位1回、リタイア1回というもの。

またYZR500の戦力についてタイトル決定後ローソンが「エン

レース・リザルト

モトクロス全日本選手権第7戦・東北大会は、7月19～20日の両日、青森県の大鱈温泉第2スキー場で開催された。この日は国際A級125ccクラスの第1ヒートで田淵武が2位、第2ヒートで川崎智之が3位に入りヤマハのヤングパワーを披露。また250ccクラスでは光安鉄美が、3位～4位。このクラスには、カラーページで紹介した'87YZ250も鈴木秀明らのライディングで登場。あざやかなホワイトYZにファンが目集中していた。(下)



ロードレース全日本選手権シリーズは、約1ヵ月半ぶりの開催。8月10日の筑波サーキットに2万2千の観衆を集めて行なわれた。この日のメインレース国際A級250ccクラスでは、YZRの長谷川嘉久が59秒50のコースレコードで予選1位。決勝では、同じYZR250の片山信二が14周目に2位に浮上すれば、スタートで出おくれた長谷川も終盤3位まで追いつける健闘をみせ、結局片山、長谷川のYZRコンビが2～3位。この結果、長谷川90、片山88とランキングポイントをのぼし、残り2戦とともに初タイトルを賭けることになった。(写真◎長谷川+YZR250)



マハO X66の開幕3連勝で話題を呼んだJAF全日本F2選手権シリーズは、8月10日・富士スピードウェイで第6戦を迎えた。ここ2戦優勝を逃しているO X66勢の復活が期待されたが、イタリア人ドライバー、イワン・カベリの2位が最高位、G・リース4位、松本恵二が5位に入った。

- 9月**のレーシング・カレンダー
- 全日本モトクロス⑧・近畿
 - ◆全日本トライアル⑥・東北
 - ♥全日本カート西地域⑥・津保川
 - 9月14日
 - ▼全日本ロードレース日本GP・鈴鹿
 - 9月21日
 - ▼スーパースプリント'86・富士
 - ◆全日本モトクロス⑨・四国
 - 全日本トライアル⑦・北陸
 - 9月28日
 - ▼鈴鹿グレート20・2&4鈴鹿
 - ◆スーパースタジアムトライアル・東京
 - ♥JAF・F2⑦・鈴鹿
 - ♥全日本カート東地域⑥・SUGO

▶ラバードもこの秋の日本GP、フジインターナショナルロードレース等への出場が予定されている。
▼YZR250で激戦の250ccを制したベネズエラの火の玉男ラバード



▶ライバル④ガードナーも脱帽の速さでチャンピオンめざしてひた走る②ローソンとYZR500
◀2年ぶり世界一の座についたエディ・ローソン。10月5日には、スポーツランドSUGOにやって来る



500ccクラス

●'86世界選手権ロードレースランキング

	マシン	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	合計
		スペイン	イタリア	西ドイツ	オーストリア	ユーゴ	オランダ	ベルギー	フランス	イギリス	スウェーデン	サンマリノ	
E・ローソン	Y	12	15	15	15	15	—	12	15	10	15		124
W・ガードナー	H	15	—	12	12	10	15	8	6	15	12		105
R・マモラ	Y	8	12	5	10	12	12	15	12	6	3		95
M・ボールドウィン	Y	10	10	10	6	6	10	—	8	—	10		70

250ccクラス

C・ラバード	Y	15	12	15	15	—	15	—	15	12	15		114
S・ボンズ	H	10	6	—	6	15	10	15	12	10	12		96

*ポイントは1位=15 2位=12 3位=10 4位=8 5位=6 6位=5 7位=4 8位=3 9位=2 10位=1

なお、注目の平選手はフランスGPで10位、イギリスGPでは9位走行中に転倒リタイア、スウェーデンGP13位と健闘をつけている。(写真はいずれも第10戦スウェーデンGP)

ジンもタイヤもサスも……マシンはすべて完璧だった。シーズンを通してトラブルもなく、チャンピオンを決めて気楽な気持ちで最終戦のレースができるなんて最高だ」と語ればライバルのガードナーも――
「まさにヤマハは速すぎた、アンダーストップの2本の直線が、私を負かしたんだ。ローソンのスリップストリウムにさえ入ることができなかったのだから、いくらコーナーでかせいでもどうしようもない……」と、そのハイポテンシャルを認めている。
一方、250ccクラスは終盤その激しいライディングで火の玉男の名をとったベネズエラのC・ラバードとスペインのシト・ボンズのマツチレースの様相を呈してきたが、ラバードがスウェーデンGPで今季6勝目をマーク、ボンズに18点の差をつけて2度目の世界チャンピオンを決定した。

「チャンピオンシップ・カーニバル」で 秋のスポーツバイク商戦をリード!

E・ロソン、C・ラバードによるYZRの世界GP2クラス制覇、日本GPロードレース、スーパープリント'86フジインターナショナル・ロードレースそしてTBCビッグロードレースとビッグイベントの相つぐ開催さらに身近かなところではMP12レースの普及……などロードレース人気がまた一段ともり上がる中で、いよいよ秋のスポーツバイク商戦のスタートです。

もちろんこの秋のポイントは、FZR400、TZR250、YSR50/80などともっか人気最高潮のレーシーモデルの定着。

これにあわせてヤマハでは、店頭活性化キャンペーン「チャンピオンシップ・カーニバル」を開催し、みなさまの拡販活動をサポート

トさせていただきます。

この「チャンピオンシップ・カーニバル」は、左記のようなもりだくさんの材料を活用しながらみなさまの店頭でレーシング・イメージと豊富なレースの話題を再現、これによってお客さまの来店を促進しようというものです。

世界GP映画「フライドワン」のプレミアムポスター付前売入場券の販売や、マルボロ特別カラーYSR50の発売をはじめ、話題性も豊かに展開される「チャンピオンシップ・カーニバル」をフルに活用され、お店でもどうぞ積極的に秋のスポーツバイク商戦を展開ください。

MP12レースの普及ビデオ 「YSRグランプリ」完成

'86 YESSサマーフェスティバルでの開催以来、急ピッチで愛好者を増やして



いるS5・MP12レース。このMP12レースのすべてをまとめた普及用ビデオ「YSRグランプリ」気分はGPレーサーが完成しました。

MP12レースのルールから実際のコーナリング・テクニクまでを約20分間にまとめ、イコールコンディションで楽しむMP12レースの楽しさをきわめて簡潔に紹介したものです。YSR50そして9月から新登場のYSR80の拡販に、どうぞご利用ください。

▼価格・6千5百円



*この欄に関するお問合わせは、担当セールスマンにどうぞ。

Y.E.S.S.

'86鈴鹿8時間耐久レース PRビデオ完成

モータースポーツの真夏の祭典・鈴鹿8時間耐久レースの模様をまとめたPRビデオが完成しました。鈴鹿サーキットを埋めた15万人の大観衆の応援ぶり、長く苦しいレースに臨む選手の表情そしてスタートからゴールまでのレース展開とそれを支えるピットクルーの姿を、昨年の回想シーンを交えながらまとめたもので、もちろんノービス4時間耐久の模様も同時に収録されています。



販売店さまへの斡旋価格は、8500円、お店のビデオライブラリーにぜひお加えください。

● YESSスタック特典バンフレット ● YESSカタログ・スタンド ● YESSパナー ● YESSフラッグ ● YESSのほり ● YESSポロシャツ
先月号のこのコーナーで紹介した新しいYESS活動促進ツールのかずかず、みなさまのお店ではもうご活用いただいていますか? 中でもこの夏のYESSイベントで好評を集めたのがYESSポロシャツ。お店のYESSクラブのユニフォームとして多くのYESSショップでご利用いただいたものです。9月からはいよいよスポーツの秋、YESSの季節、どうぞこれらツールをフルに活用してお店でも活発なYESS活動をご展開ください。好評のYESSポロシャツもまだ用意があります。

※詳しくは担当セールスマンにお問合わせください。



スクーターやオンロードスポーツを中心としたスポーツイベントが各地でにぎやかにくりひろげられています。その一方でオフロード愛好者も着実に増えつづけています。

1人では楽しみにくい、良きライダーに恵まれないと楽しみ方がわからない……といわれるオフロード・ライディングにとって最高の入門機関となっているのが、オフロードYRS。

現在、ヤマハ普及課では、関東地区を中心に、この「オフロードYRS」のモデル店、

YD250、YD281、PW50の 新版サービスマニュアルが完成しました

9月1日から新発売されるYD250、YD281、PW50のサービスマニュアルを商品の市場導入と同時に発売いたします。お店のサービス業務に、また最近とくに増加傾向をみせているセルフ・メンテナンス派の顧客さまへのガイドブックとして、どうぞご準備ください。

▼YD250 (2HV) 28197-000
注文No. 321112 価格26000円
▼YD281 (2GX) 28197-005 注文No. 321115 価格2000円
▼PW50 (36E) 28197-000 注文No. 321113 価格10000円

※この欄に関するお問合わせは、もよりのヤマハ特約店・販売会社営業所のサービス課へどうぞ。

さあ、スポーツの秋 お店でもオフロードYRSの開催を!

運営店を設定、販売店さんの自主開催のためのお手伝いを進めています。この「オフロードYRS」の特徴は――

- 社長さんや従業員さんがインストラクターとなって手軽に開催できる
- 事前に参加希望者をお店に集めてミーティングを開催し、参加者と主催者が一緒になってカリキュラムやスケジュールを決定する
- 遊びの要素をふんだんにもり込んで楽しみながらオフロード・テクニクをマスターできる

―― などとなっていることです。

カット写真は、7月20日、山梨県の富士バイクランドで行なわれたYSP八王子西(森田真社長)さんのオフロードYRSのひとコマですが、この日は熱心な参加者が前日から会場でキャンプしたり、また昼食にはバーベキュー大会をひらいたり、さながらオフロードYRS+バイクレジャといったもり上がりぶりでした。さあ、これからはスポーツの秋、お店でもとくにスクーターやロードスポーツのお客さまを対象にこの「オフロードYRS」の開催をぜひ検討ください。

※なお、オフロードYRSについて詳しくは担当セールスマンまたはもよりのヤマハ販売会社普及課宛にお問合わせください。

9月のヤマハ提供・テレビ番組 ますます内容充実の"ONザンボウレ"

5時15分より15分間放送されます。

放送地域の販売店さまには本誌前月号のはさみ込みチラシでもご案内いたしましたヤマハ1社提供のバイクとマリーンの総合スポーツ情報番組「ONザンボウレ」の9月の放送予定は次のとおりです。

- 9月5日「鈴鹿4時間耐久レース」ノービスライターの真夏の祭典・4時間耐久レースの出場チーム追跡
- 9月12日「老教授とオートバイ」この道30年、老大学教授のバイクライフ
- 9月19日「全日本水上スキー大会」全日本V4の小佐野富美、男性顔負けのパワールの秘密を公開
- 9月26日「バス・プロトナメント」人気のゲームフィッシング・バスのトーナメントをレポート

※なお、この「ONザンボウレ」は、テレビ東京、テレビ愛知、テレビ大阪、テレビせとうちの各局で毎週金曜日・午後11時30分から15分間、また静岡放送で毎週日曜日・午後

一方、TBS系全国ネットで放送されているヤマハ提供番組「月曜ロードショー」9月は最高的人气シリーズと題し次の内容で放送されます。

- ▼9月1日「ブリット」S・マックイーンのカーアクションのきわめつけ
- ▼9月8日「犬神家の一族」横溝正史原作の怪奇サスペンス
- ▼9月15日「セーラー服と機関銃」薬師丸ひろ子主演の痛快青春劇
- ▼9月22日「時代屋の女房」いまは亡き夏目雅子の代表作
- ▼9月29日「ロッキード」いま人気最高・ロッキードのパートII

※なお、この両番組を通じて本誌最終ページにご紹介したスポーツバイクのテレビCFもオン・エアされます。あわせてお楽しみください。



1986年のJAPAN KART GRAND PRIX開催!

今年で10年目を迎えるレーシングカート国内最大イベント「JAPAN KART GRAND PRIX」が、下表のとおり開催されます。

10月17日(金)から19日(日)までの3日間、スポーツランドSUGO・国際カートコースで開催されるこのレースは記念すべき第10回大会とあつて、内外のトップカートの参加と、白熱したレース展開が話題を呼んでいるものです。お客さまへのご案内どうぞよろしく。

なお、この'86J.K.G.P.へのエントリー受付は9月9日(火)から16日(火)までの1週間におたり行なわれます。詳細は、SLカートクラブ本部事務局までどうぞ。(TEL) 05383-74100・ダイヤルイン)

'86ジャパンカートグランプリ			
日程	10月18日(土)～19日(日) 但しG.P.は17日(金)より開催		
会場	SUGO国際カートコース		
エントリー	9月9日(火)～16日(火)締切		
レース	SL全国	日本	全日本選手権
	チャンピオン大会	グランプリ	最終戦
格 式	クローズド	国際	国内
クラス	レディス(JF)、Sストック、SSストック、AS	フォーミュラーK (135cc)	A I、A II
参加資格	SLライセンス所持者 Sストックは各ブロック選抜者 他はフリー	国際ライセンス所持者	東・西地域シリーズ上位各20位までの観戦者

平均年齢はいつも24〜25歳 爽やかなみちのくのツーリング仲間たち

■YSP弘前南 / 千葉孝勝社長(青森県弘前市大字文京町6-22)



今月は、みちのく弘前のツーリング仲間の登場です。下北半島、男鹿半島、八幡平、田沢湖……もりだくさんのツーリングルートをさわやかな初秋の風を受けて走りまわるSRC Hのみなさんです。

●毎年変わるメンバーの顔ぶれ

クラブの結成から6年が経ったいまでも、平均年齢24〜25歳という若々しい「セフティライダーズクラブ弘前(SRC H)」のみなさん。なにをかくそうその秘密は、約40名のメンバーの半数が、クラブの本拠「YSP弘前南」さんのすぐ裏手にある国立弘前大学の学生さんたちだからなのです。

四年生のクラブ員が卒業して社会に巣立っていくと、かわりに新入生のクラブ員が加入してくる、まるで大学のクラブそのものような若々しい自由な雰囲気なクラブです。

「クラブ員の入替えが毎年自然に行なわれる、その分だけいつも新鮮な雰囲気なクラブといえるでしょうね。でもそうしたメンバーの交替がスムーズに行くのも、結成当時からクラブの運営に当たってこれているリーダーたちがいるからなんです。土地柄周辺には最高のワインディングロードがいっぱい。楽しい分だけ危険も多いいんですが、そんな中でも無事故でやってこれたのは彼らリーダーの力に負うところが大きいです」と千葉社長。

●リーダーの努力で6年間無事故

千葉社長の言葉のとおりこの「SRC H」のみなさんの安全運転に対する意識は、他と比べても一段と高いものがあります。新人や初心者のクラブ員は、まずお店で主催するミニYRSやさらにスポットランドSUGOで開催されているYRSに参加してしっかりと基本テクニクをマスターしてもらうことになっています。

そうして行なうツーリングは、毎月第2日曜日が定例のクラブツーリング。クラブのミーティングで目的地を決めますが、平均すると25人前後のメンバーが、この月例ツーリングに参加しています。いまメンバーの間で最も人気の高いのが、八幡平のアスビータイライン。そしてこの月例ツーリングには必ずお店の軽トラが同行し、その荷台には必ずプロパンガス、バーナー、鉄板……が。そう目的地のパーベキューパーティも「SRC H」の恒例行事となっているのです。

●大爆笑のアフターツーリング

「それともうひとつあるんです」と千葉社長が披露してくれた月例ツーリングの楽しさは「いつも必ずサイドカーを同行させてそこから参加メンバーひとりひとりの走りをビデオに収めているんです」。



Y.E.S.S.
YAMAHA EARTHLY SPORTS SYSTEM

Y.E.S.S. HOT-LINE

Y.E.S.S.ショップがY.E.S.S.ショップとのコミュニケーションスペース Y.E.S.S.ホットライン

新ツールの活用で よりスムーズな手続き処理を!

入会手続きの一新にともなう、Y.E.S.S.の新しい手続きツール、もう十分にご活用いただいていますか?

- ① 4枚つづりのY.E.S.S.スタッフ参加申込書
- ② 申込み書の記入方法をわかりやすく説明した下敷きマニュアル
- ③ Y.E.S.S.ボックス
- ④ 本カードがお客さまの手もとに届くまでの仮カード
- ⑤ Y.E.S.S.イメージポスター
- ⑥ Y.E.S.S.スタッフ募集パンフレット

—以上の6点が、入会手続き用ツールとしてお店にご常備いただきたいものです。



このうち特に有効にご活用いただきたいのが③Y.E.S.S.ボックス(写真下)です。上下2段になったこのボックスは参加申込書と下敷きマニュアルをここに常時セットで保管しておくことで、いつでも入会手続きが行なえるようにしたものです。またこれに加えて、お店の所定の場所にこのボックスをセットし、記入済みの入会申込書を入れておけば、担当セールスマンがいつでも営業所に持帰り、す早い手続き処理が行なえるように、と採用したものです。こうした点も担当セールスマンとご相談のうえ、新ツールの活用による円滑な手続き処理をおすすめください。



日帰りツーリングの後で、店に帰ってすぐに試写会。1人1人のコーナーリングを批評しあったり、アドバイスしあったり大爆笑のアフターツーリングのひとつときなんです」というわけです。

またこれからのツーリングクラブの運営についても千葉社長は——

「女性ライダーがどんどん参加してくるようになるので、もっと幅広い活動を考えるようにしていかななくてはなりませんね。そのためにもリーダーやサブリーターのお客さんたちの研修会を実施したいと考えています。初心者や女性をもっともつとまくりードしていきけるようにねと積極的。

大学入学と同時にクラブ員になったお



客さまが1年ごとに上手になっていく、しかし卒業と同時にクラブも卒業……でもそんなお客さんが懐かしいいっばいにお店を尋ねてくれる、そんなところにも「SRCH」のすばらしい雰囲気表われているようです。

いつも笑顔でクラブ員を迎える千葉孝勝社長(左)とスタッフの成田博佳さん、奥さま友子さん

豊富な情報、徹底したサービスマスターの魅力でお客様さまを増やす

YSP南柏／小西 秀店長 千葉県柏市南柏1-14-12 ☎0471(45)9641

女性ライダー急増の一方で店頭で活躍する女性従業員さんの姿も目立って増えていきますね。今回ご登場いただいたYSP南柏さんもそんなお店。若い店長さんと明るい女性従業員さんの名コンビで、スポーツユーザーを増やしつつあります。

●オープン4年で地域に定着

典型的な東京のベッドタウンとして急成長をつづける千葉県柏市、ここでスクーターを中心に地域に密着したご商売をつづけていた(株)井上輪業・井上金男社長が「急増するヤングスポーツユーザーに対応する新店舗を…」と本店から2キロほど離れた国道6号線沿いに出店したお店、それが今回お訪ねした「YSP南柏」さんです。



昭和58年2月にオープン。いまやこのお店は若い小西店長と明るく行動的な井上社長のお嬢さん洋美さんの名コンビの活躍で、ユーザー指導のしつかりしたお店「アフターサービ

スの完全なお店」女性ライダーの集まるお店として広く知られています。10代から40代まで幅広いお客さまが、地元柏市から松戸市、流山市、野田市などの周辺都市さらには利根川を渡って茨城県からも来店し、お客さま名簿の人数もいまでは1千名にのぼるといいます。

●徹して楽しむお客さまを、徹してフォロー

スタイルやファッション、走ることにのめり込みを集中し、基本的なメカニクスにほとんど興味を示さない、またメンテナンスはすべて販売店さんにおまかせ……そんなスポーツユーザーが主流を占める中で「乗ることはかりでなく、直接自分でいじることを通じてもっと積極的にスポーツバイクを楽しもう」というお客さまの台頭が注目を集めています。この傾向は「YSP南柏」さんでも顕著。

「20代以上のお客さまに多いんですが、スポーツバイクを楽しむならメカニクスまで徹底してやってみようという方がたしかに目立ちますね。カウリングの取付け方、ピストンの交換、パッキンの交換などけっこうむづかしいことを聞きに来るんです。また、新車の購入時に一緒にサービスマニュアルを買っていただくお客さまが多いのも、こんな傾向の表われじゃないですかね」と語る小西店長。じつはこうしたお客さまに対する徹底的なフォローこそ「YSP南柏」

さんの特徴であり、ユーザー指導のしつかりしたお店」という定評の源ともなっていることなのです。

「どんな技術的な質問、メンテナンスのし方の問合わせにもきちんと答えるようにしています。工具を借してあげるとその場でお客さまがやり始めますけど、危なっかしい所は、つい手を出してやってあげてしまおう……(笑)でもこのおかげでお客さまのバイクに対する興味が高まったり、サービス技術のむづかしさを肌で感じて「サービス料金」への理解を示したり……いろいろな効果を得ているんです。この6月には、女性ユーザーばかりを対象に店で「レディス・メカニカルスクール」を開催しましたけど、11名も集まって大変好評でした」

●信頼を育くむ、女性ならではのキメ細さ

もうひとつ「YSP南柏」さんの特徴となっているのは徹底したアフターサービスマスターです。「軽トラックを1台用意して本店とYSP店の両方の出張修理を行なっています。県外へ出かけることもしばしば。よくうちのお客さん以外の方から出張依頼があるんです。聞いてみると友人からのくちコミでうちの出張サービスのことを知っている人が多い。広がり方のすごさに驚くこともしばしばです」

こうした出張サービスの波及効果もあっていまや「YSP南柏」さんのサービス売上げ



6月にお店で開いた「レディス・メカニカルスクール」の参加者のみなさん。みなさんの笑顔を見ればお店への満足度も了解。もっかこの企画の第2弾も進行中

は全体の3分の1(その半分はパーツ売上げ)を占めるまでになっています。そして、こうしたアフターサービスマスターの売上げアップで見逃せないのが洋美さんの役割です。「お客さんにとって修理に出したバイクがいつ直るのか、また注文したパーツがいつ入荷するのか、というのが一番気になる場所です。これをうちでは洋美さんが、きちんと修理の進行やパーツ入荷状況をお客さんに電話連絡しているんです」

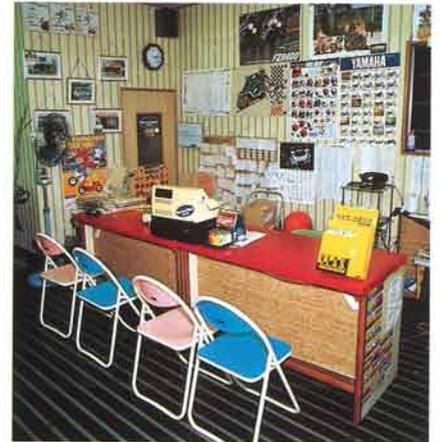
おかげでお客さまからの信頼感も格別。おまけにパーツにしても入荷が遅れてお客さんがパーツ専門店や他店に流れてしまったり、それによって不良在庫が発生したりということもなく、大助かりです。当り前のことだけ

「55mph」や「WAY」などの情報誌もバックナンバーまで揃えて展示

Y.E.S.Sスタッフはもっか29名。スタッフボードには、パーツ注文控がびっしり



スクーター、スポーツ、用品類が合理的に展示されたショールーム

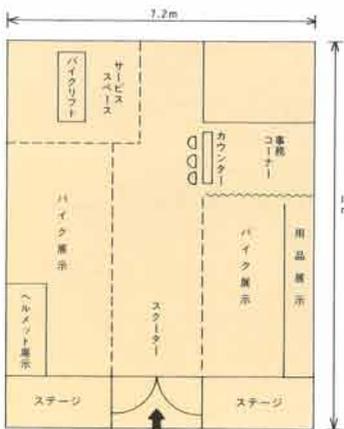


30坪のショールームを有効に使おうとカウンターもシンプルに

「YSPは若い感覚で、と若い者にならせました」と井上社長(右)「女性ならではの細やかなサービスを大切に」と洋美さん、中央が小西店長



オイルなどのケミカル用品で仕切ったサービスコーナーにはバイクリフトも



「スポーツバイクにスクーターも加え、ヤマハ商品はすべて揃い、知識も情報ももりだくさんなYSPのイメージそのままの「YSP南柏」さん。YSPはヤマハを代表する顔であることも忘れずに信頼感の高い店でありつづけていますね」と小西店長は、結んでくださいました。

「いまのお客さんは金額だけじゃ来店しませんからね、店の中身をしっかりと見きわめて力を入れているのが年に4回店頭で行なう試乗会です。これは最初から即売というよりも店名浸透と来店促進に的を絞ったもので、なんと来店されたすべての人に楽しんでもらおうという工夫をしています。スピードクジをしたり、試乗者には、55mph、予約者には、ディズニールランド入場券をプレゼントしたり……。そして、この店頭試乗会の開催告知は1回に3万枚程度配布している折り込みチラシでやっています。チラシの内容も、イベントやインフォメーションなど情報が求められる時代のようなね」

「来店促進は店頭試乗会から」さて、お客さまのお店に対する選択眼が日毎にキビシさを増している中で、こうしたお客さまに対するサービスにあわせて来店促進のための活動が目立っていますが、こども「YSP南柏」さんでは、小西店長と洋美さんのアイデアを活かしたキメ細かい企画が実施されています。

「どなかかなかできないことですよ」と小西店長も満足気。

ヤマハライディングウェア '86'87秋・冬コレクション 新登場

この春の内示会で販売店のみなさまからご予約をいただきましたヤマハ・ライディングウェア '86'87秋・冬コレクションが、いよいよ9月より新発売となります。

ライダーの心を知りつくしたデザインとつくりで定評のヤマハ・ライディングウェア、お店でも秋・冬コレクションの積極的な拡販活動をご展開ください。

ヤマハのレーシング・スピリッツとテクノロジーから生まれた『ピュア・スポーツ』シリーズ。ヤマハ・レッドをキーカラーに、レーシングスーツ、ツーリングスーツ、グローブ、ブーツ等のレザー用品からブルゾン、防寒具、レインスーツまで充実の商品展開。とくにSTPによる防寒性にすぐれたブルゾンやレディスサイズ対応商品なども加えて、一段と売りやすいラインナップとなっています。

PURE SPORTS

RY-138 ブルゾン ¥34,000



YL-327 レーシングスーツ ¥174,000



RY-137 ブルゾン ¥28,000



LIGHT SPORTS

ブルゾンを中心とした『ライト・スポーツ』シリーズは、カジュアルで行動的なシティ派ライダー向け。そのファッション性はライディング・ウェアとしてばかりでなく手軽なタウン・ウェアとしてピッタリのもです。

RY-148 ブルゾン ¥32,000



RY-149 ブルゾン ¥32,000



※本欄の価格はすべて標準現金価格です。

NEW HELMET

シティ派ライダーの、ちょっと小粋なヘルメット リーウインズL-1新発売

原付のヘルメット着用義務が定着するにつれて、ヘルメットがライダーの個性表現の大きな要素となっています。そんな中で、ミントやニュージョグなどパステルカラーのライトなモデルにあわせた、カジュアル感覚いっぱいのニューヘルメット『リーウインズ・L-1』が新登場します。

確かなつくりで定評のリーウインズをベースに、スタイル、カラー、内装までライト感覚をもり込んだ“小粋で、おしゃれ、な『L-1』。身のまわりのすべてを通じて個性を表現するシティ派ヤングに、ぜひおすすめください。



■リーウインズ L-1の特徴

- ①白をベースにグリーン、ブルー、イエロー、ピンクのおしゃれなデザイン
- ②グレー系起毛生地を使用、質感も大幅にアップした内装
- ③トリムも内装にあわせてグレーに統一

- 標準現金価格：1万5800円
- カラー：ホワイト/グリーン、ホワイト/ブルー、ホワイト/イエロー、ホワイト/ピンク
- サイズ：M、L

◎うちの用品コーナー

ブラック、グレー、ホワイトなどを基調にシックな色調でまとめあげられたこの用品コーナーは、愛媛県西条市の㈱はなやま(花山志郎社長)さん。

45坪のショールームのうち16坪を占める用

品コーナー。「私の好きなモノトーンでまとめました。ともかくこのコーナーをぐるっとひとまわりすれば頭のてっぺんから足もとまですべての用品が揃います。展示のポイントは季節感やニュース性を絶えずもり込むこと、それと廉価で身近かな商品と高価でハイグレードな商品をきちんと区別して展示していることですね」と花山社長は語っています。



用品コーナーの中央に置かれた展示台兼用のユニークなテーブル。中には折から鈴鹿8時間耐久レース関係のグッズ類が

ミラーの前におわん型ヘルとプラモデルが何気なくおかれたコーナーの一隅。こんな演出がマニアの心をたまたまなくする



タウンロードからサーキットまで、着る場所を選ばない『ジオラマ』シリーズ。定評の解放的で高感度なデザイン、カラーバリエーションを一段と充実させた秋・冬コレクションです。



YL-328 ジオラマレーシングスーツ ¥138,000

AY-129 ジオラマライティングシューズ ¥15,800



GY-115 フルゾン ¥28,000



